

「死んだら流石に愛しく思え」

櫻井智也

舞台上、喫茶店、机を挟んで川島と女（わたなべ）、二人を見る形で母親が座っている

母親　いいことだよ、いいことだよねえ、お母さん大賛成だよ

わたなべ　・・・ほんとですか

母親　大賛成だよ、家を出て二人で一緒に住むんでしよう？大賛成だよ

わたなべ　・・・じゃあ

母親　まさかこの子がねえ、お母さんほんとに嬉しい、私はもう、てっきり、この子は刑務所を出たり入ったりして一生を過ごすクズだと思ってたから、掃き溜めの中で浮き沈みを繰り返すイボガエルだと思ってたから、まさかこんな、ねえ、アマガエルになりますみたいなこと言われたら、お母さんびっくりしちゃってびっくりカエルだよ！

わたなべ　・・・もう、刑務所に入るようなことはしないって約束してくれましたから

母親　ほんとに？凄いいじゃない！あんた本当にこの子のことが好きなのねえ・・・(にっ

こり微笑みながら)・・・正気？

川島　なにが言いたいんだよ

母親　ほんとに、この子の事よろしく願いますね、言う事聞かなかったら角材とかで頭殴っちゃってください、そうしないとねえ、あんた分かんないもんねえ、お母さん苦労したほんとに、何度も床に脳みそぶちまけてやろうかと思った、ね？

わたなべ　・・・お母さん

母親　この子はほんと、気が利かないっていうか、そういうところあるでしょう、この子が小さい時にねえ、私がほら、売春婦でしょう、家で客とつてる時にこの子がもう、邪魔だから、外にほっぽり出したの、裸足で、そうしたら靴履いて帰ってきたからね？あんたそれどうしたのって聞いたら通りすがりのトラックの運転手が見かねて買ってくれたっていうのね、あらいやだっつって、私はもう、この子が白目剥くまで殴って、なんで現金もらってこないんだって、気が利かないんだほんとにもう、ねえ？覚えてる？

川島　白目むいてんだよ、覚えてるわけないだろ

わたなべ　お母さん、どうか、私たちの事は放っておいてもらえないでしょうか
母親　できないよう、そんなの無理だよねえ？

わたなべ　え？

母親　こいつは一生あたしの奴隷なんだよう

わたなべ　・・・(うつむいてしまう)

母親 その方がいい、そうしてた方がいい

わたなべ え？

母親 あ、顔上げない方がいい、ブスなんだから、ブスなんだから下向いたほうがいい、
(わたなべは俯く) うん、そう、下向いてたら、かーわいい

川島 いい加減にしてくれほんと、なんのつもりだよ！

母親 ねえ、この子は愛してるって言ってくれるの？

わたなべ ……はい

母親 凄いわねえ！あんた、やるじゃない！こんなブサイク相手に、気でも違つたんじやないの！？

川島 気が違つてんのは自分だろうが！

母親 なにを怒つてんのあんたは、あんたどうしたって下品なイボガエルなんだから、
なにを上品ぶつて

母親は微笑みながら席を立ち、ゆつくりと机の上に登つて川島の前に立ち、スカートを捲り上げ

母親 あたしのここで飯食わせて貰つてたくせに！いっぱしの口きいてんじやないよ！

わたなべは駆け出して逃げる、川島は頭を抱える。母親は川島の頭を撫でながら

母親 あんな売女がいなくなったからどうって事ないでしょ？いい？あんたは死ぬまであたしのものなの、クズはクズらしく、クズのまんま死ぬんだよ？

母親は舞台上から出て行く、川島は頭を抱えて椅子に座っている
舞台上は取調室に変わり、刑事の櫻井が川島の向かいに座る。

少し離れたところで刑事の小川が調書を取っている

櫻井 ひとつ、聞きたいんだけどさ、お前にとって人間ってなんなの？

川島 ……え？

櫻井 えじゃないの、そういうの考えちゃダメなの、パツと思いつくままに言わなきゃダメ、そうしないとほんとのお前が見えないから

川島 ……うーん

櫻井 ダメなんだって、言われたらパツと言ってくれないと意味ないの

川島 俺にとってはなんでもないモノですネ、ただの白い紙かな

櫻井 ……いいよ、なしなし、大丈夫、質問変えるから

川島 だってそうなんだもん、仕方ないじゃないですか

櫻井 時間かけて考えたじゃないかよ、人間とは何かと尋ねてるんだよ、白い紙ってなんだよ、んな訳ねえよ、かっこつけんなよ

川島 カッコつけてる訳じゃないですよ

櫻井 だっておかしいじゃん、お前にとって人間ってなんでもないモノなんだろう？じやあそれだけでいいじゃん、なんでその後「白い紙かな」みたいなの付け足したの？小川くんどう思う？こいつ今絶対かっこつけたよね？

小川 どう、ですかね、こいつなりの言い回しなんじゃないかと思えますけど

櫻井 だからさ、言い回し気にすんなって話なんだよ、パツと出た言葉がそいつの真実なんだよ、そこにしか俺は興味ないんだよ、なにが白い紙だよ、小川くん、白い紙のくんだりさあ、絶対闇に葬ろうね

小川 軽く疑問なんですけど、白い紙のくんだり、そんなにかっこよかったですかね

櫻井 かっこよかったけどね、パツと出た言葉じゃないからダメだよ、時間かけたら誰だって格好いいこと言えるんだからさ、ホントの格好良さじゃないよね

川島 じゃあ刑事さんにとって人間ってなんですか

櫻井 ……うーん

川島 ダメなんですよ

櫻井 いいんだよ、俺はいいんだよ、うるせえなお前、お前がバカ、お前がバカだよお前前がかっこつけるから気分 अच्छा ったんだよ、お前のせいだよバカ

川島 刑事さんにとって人間とはなんですか？

櫻井 愛すべきものたちだよ！

川島 ……

櫻井 ……

川島 色とりどりのコンペイトウだよ

川島 ……あの

櫻井 お前のせいだバカ、俺だってここまでじゃなかったわ、どうすんだよお前

川島 俺がちよっとわからないのは、色とりどりのコンペイトウっていう

櫻井 うるせえよお前、人間って色んな角があるじゃん、でも愛らしくて優しくてコンペイトウじゃん、コンペイトウじゃない？人間はコンペイトウじゃない？

川島 ……

櫻井 ……

小川 小川くん、俺ばっかり喋ってない？

小川 喋ってます、今の所、調書が櫻井さんで溢れています

櫻井 ・・続けようか

小川 お願いします

櫻井 お前にとって人間は何でもないモノだから、次から次へと殺せたって事だな？

川島 まあ、そうですね

櫻井 でもさすがに人を殺す瞬間は、なにかしら思うところあるだろう？

川島 なにも考えないですね・・タバコを揉み消すような感じですよ

櫻井 ・・またやったな

川島 なにがですか

櫻井 タバコを揉み消すくだりいる？なにも考えないですねだけで良くない！？

川島 いや、分かりやすいかなと思って

櫻井 なにも考えずにタバコもみ消したら危なくない！？火事になったらどうすんの、

タバコを揉み消す時には最低限の注意は払うだろ、そんなの絶対嘘だよ！

川島 ああ、じゃあ、それぐらいはあったかもしれないです

櫻井 なにが

川島 人を殺す時、タバコを揉み消す時ぐらいの、なんか、気持ちみたいなの

櫻井 ・・きちがいだねお前

川島 ほんとのきちがいていうのは、俺のお袋みたいな奴の事言うんですよ

櫻井 おふくろさん？

川島 ちっちゃい頃、兄貴が捨て犬拾ってきた、二人で隠れてその犬飼ってた事がある

んですけど、お袋に見つかって、やばいと思って、そしたらお袋がすげえ優しく

笑って、この犬が好きなのかって聞いてきたんですよ、で、好きだって答えたら、

答えた瞬間その犬目の前で殺されたんですよ

櫻井 ・・なんでだろうね

川島 あとあれですよ、お袋、ホテル代が勿体ないって家に客を連れ込んでたんですけど、俺、お袋に女装させられて、客とお袋がやっているとこ見てるように言われ

て、そういうの、よくあったんですけど、気持ち悪いじゃないですか、吐き気が

するんですよ、というか、吐く寸前みたいな、でも我慢するじゃないですか、そ

うするとお袋がね、また殴るんですよ、だから、吐いてないのになんで殴るんだ

って俺が言うよね、お袋が、なんで吐かないんだって怒るんですよ、もう、なに

がなんだか分かんないですよ

櫻井 ほんとだね

川島 あとね、客の太ももをナイフでブリブリに

もういいかな、うん、お母さんの武勇伝みたいなやつ、とりあえずもういいかな

川島 お袋に比べたら俺なんて可愛いもんだと思うけど、まあ、刑事さんの言う通り、
自分でも頭おかしいとは思いますが

櫻井 あれ、お前自覚あるんだね

川島 あるでしょうそりや、俺みたいな頭のおかしい奴にも俺がおかしいって事ぐら
いはわかりますよ、だって、頭おかしくなかったらあんなに人を殺せないもん
まあ、そうだよな

櫻井 でもあれですよ、俺の事、どこもおかしくないって奴も結構いたんですよ

川島 へえ、そうなんだ、どんなきちがいがそう言ってくれたの？

櫻井 いや、普通の、普通っていうか、普通だなあれは、もちろん、きちがいも俺の事
おかしくないって言ってくれてたけど、普通の人にも言われた事ありますよ

櫻井 普通の人に言われた時、どう思った？

川島 普通の人が言うんだからそうなのかなって思ったけど、実際ねえ、自分と照らし
合わせてみると、なんかおかしいぞって所はあるんですよ、だから、どうなのか
なって

櫻井 どうなのかなって、気持ちいいぐらいのきちがいなんだけどね

川島 なんですけどね、どうなのかなって・・・実際どうなんですかね

櫻井 きちがいだよ

川島 そうなんだけど、でも実際どうなんだろう、なにかが俺にそうさせるとして、治療
できないものだとして、そうすると、仕方ないっていうところ、ないですかね

櫻井 自分の意思じゃなくて、なにかがお前に人を殺させたって事？

川島 そうですそうです

櫻井 ないよ

川島 ・ ・ ・

櫻井 お前がお前になった原因っていうのはあるんだろうけど、お前が人を殺す原因
はそこにないだろ、単純に、お前は、人を殺したくて殺したんだよ

川島 ・ ・ ほんとにそうなのかなあ

櫻井 なにを今更分かんなくなっただよ

川島 例えば刑事さんの中に、これだけは間違いない、これだけは変わりようがない、
なにがどうあっても崩れる事はない、そういうものってあります？

櫻井 小川くんあります？

小川 ・ ・ まあ、ありますね

川島 なんですか？

小川 ・ ・ ・ え？ いや、だから ・ ・

櫻井 パツと答えなきやダメなんだよ

小川 いや、ありますけど、そういうのって、言葉にしてパツと出てきます？

櫻井 出てくるよ、さっさと言えよ、ほら、ほら、ほら、ほら、ほら、ほら、早く言えよ！

小川 うるさいなもう！考えてんですから静かにしてよ！

櫻井 考えちゃダメなんだよ、今浮かんでるやつでいいんだよ

小川 今のこれ絶対違うから！もうちよっと時間下さいよ！

櫻井 それでいいから言ってみろって！ほら！3！2！1！ハイ！

小川 猫が！かわいい！

櫻井 ・・・そういうことじゃないよな？

川島 それがね、そういうことなんですよ

小川 そういうこと？ほんとに？

川島 自分の中で猫が可愛いっていうのは、なにがどうあって変わらないうって事です

小川 よね、猫を可愛くないと思う瞬間なんて、絶対にありませんって事ですよね

小川 そう、そういうこと！

川島 なにがあっても猫大好き

小川 猫大好き！

川島 それがひっくり返ったらもう、自分じゃないと言い切れる

小川 言い切れる！

川島 でもある日、足元に自分が殺した猫の死骸が転がったらどうします？

小川 ・・いや、それはないから

川島 でもあつたら？

小川 ないもんそれは

川島 あつたらどうします？

小川 ないんだよ！

川島 なんでよ

小川 俺が猫を殺すなんて絶対になんだよ！

川島 でもあつたらどうするんだよ

小川 ・・・

川島 これだけはないって事が起こったら、自分の意思を飛び越えて、何か俺にそうさせたのかもしれないって思っちゃうでしょ？

飛鳥が出てきて三人の後ろ、少し離れた位置に立つ、が、その姿は川島にしか見えていない

飛鳥 パパ

川島 ・ ・ ・

櫻井 お前さ、生きてて幸せだなと思つた事ある？

飛鳥 パパ

川島 ・ ・ ・ ないですね、人生の全てが嫌でたまらなかつたし、あらゆる人間が憎かつ

たし、なんていうか、もう、敵意の塊ですよ、好きなものなんて無かつたし、

幸せなことなんか何もなかつたですよ

・ ・ ・ いいよ、なしなし

いや、ほんとですって

パツと答えなきやダメなんだよ、かっこつけんじゃねえよ

つけてないですって

まあ、なにかを好きだつていふとお袋さんに壊されちゃうかもしれないもんな

・ ・ ・

で、どうだったの、お袋さん破り捨てた時

・ ・ ・

大事な猫を殺した時も、タバコ揉み消す感じだった？

パパ

パツと答えろよ

わたしはパパの、一生の恋人だよ

(転換)

十十十

舞台上、小野と澤がいる、公園のベンチに座っている

小野 そいつはもう、あれだよ、タバコを揉み消すように、簡単に人を殺せる異常者で

すよ、澤さんがいくら助けてくれて言つたつて無駄なんだから、澤さんの悲鳴

を興奮の材料とするような、俺たちの理解が及ばない世界を鼻歌交じりで平泳

ぎしちゃうような、混じりつ気なしのきちがいな訳ですよ

・ ・ ・ 毎晩、そいつの夢を見ると

だから、何度も言つてるでしょう、夢じゃないの

澤 夢でしょうよ、夢じゃなかつたらなんなのよ

小野 だつてね、朝起きると少しずつ、自分が、そいつに近づいているような、そいつ

に支配されていくような、そういう感覚があるんだから！

澤 嘘だよ

小野 ホントなんだって！このままでいつか、あいつみたいな人間になっちゃうって、あいつに乗っ取られちゃうって、わかるんですよ、感じるんですよ！

澤 ……その現象はさ、いつから始まったの？

小野 つい最近、危険ドラッグに手を出してから

澤 答え出たね、やめな？

小野 違うんだって、たまたま手を出した日から始まっただけで、その日一回しかやってないし、それだってね、はずみっていうか、どうしても日常の世界線からはみ出した日ってあるじゃないですか、そういう日だったんだよ

澤 そういう日だったんだね、なんの日だったんだろうね、元旦かな？

小野 彼女と別れた日ですよ

澤 え？あきこちゃんと別れたの？

小野 別れたましたよ、こつびどく、ふられましたよ

澤 そうなんだ

小野 すぐえこと山のように言われたよ、刺青のように罵詈雑言を刻まれましたよ

澤 そうなんだね

小野 それだけじゃないんだ、俺はねえ、呪いまでかけられちゃいましたからね！

澤 呪いってなに

小野 あなたは一生誰からも愛されないし、誰を愛することもできない、そういう呪いをかけました、ざまあみると、別れ際に言われましたよ！

澤 ……ゆたかさ、なにをしたらそこまでの事態に発展するのかね

小野 それは言えない、悪いけど、友達にだって言えないことはある

澤 わかった、じゃあ聞かない、危険ドラッグの話を大声で言えるゆたかが言えないっていうならそれはもう、聞いちゃいけない話だと思っ

小野 その呪いをかけられた日からなんですよ、あいつの夢を見始めたの、絶対、なにかしらの関係があるんだよ

澤 ……その思考そのものが、危険ドラッグの影響とかじゃないよね

小野 違うって！ねえ、澤さんはもう、なんなんだよ、俺が真剣に話してるのに変化球で逃げるような真似ばかりしてさあ、まっすぐまっすぐ向き合いなさいよ

澤 ……その、夢に出てくる殺人犯さ、どうなるの？

小野 どうなるって？

澤 いや、最後

小野 最後とかよくわかんない、今、まだ途中っていうか

澤

・・・？

小野

仲間みたいなやつが、できたところ

(転換)

十十

舞台上、川島の家、部屋の中。奥田と川島、飛鳥がいる、飛鳥と川島はお菓子を食べている。

奥田から少し離れたところに堀が座っている

奥田

いや、俺ね、デブの言う事分かるよ

堀

あ、そうですか、よかった

奥田

デブの言う事だから分かるって事じゃないよ？分かる事言ってる奴が、たまたまデブだったっていうだけね？

堀

はい、あの、嬉しいんですけど、初対面ですよ

奥田

そうだよ、だからさ、気遣わないでいいよって言ってるじゃん、初めて会ったけど、デブって呼んじやうところからスタートな俺たちでいいんだから

堀

はい、そうですか、うん

奥田

デブの気持ちすげえ分かるな、デブが心配になる気持ちわかるもん、つうかさ、ははは、待ってよ、俺今、デブの気持ちならなんでも分かるみたいになってない？大丈夫？やばいよ、今さ、俺、絶対、デブにとっての神様みたいになってるじゃん、ねえ、身構えないでね、ほんと、俺、デブとは横一線の関係でいたいからさ

堀

いや、あの、諸々大丈夫です、ちょっと引いてるかもしれないけど、横一線

奥田

ほんと？大丈夫？ぜんぜん普通でいいんだからね、こいつの友達ってことは俺の友達ってことなんだからさ、ね？

飛鳥

パパ、お菓子もうないの？

川島

奥にあるよ

飛鳥は立ち上がって奥へと行く、堀は飛鳥を目で追う

堀

・・・パパ？

奥田

うん、そう、パパ、パパじゃないよ、パパじゃない。パパじゃない、あいつ俺の妹なんだけどさ、やあ、でも、俺もさあ、好きな奴できるとね、そいつが望む俺になろうとしちゃう所あるんだけどね、やっぱり無理なんだよな、付き合う女で人

格変わるやつっているじゃない、いいよね、俺の場合、ゲイだから付き合う相手男なんだけどさ、どんな男と付き合っても俺は変わらないね

(声) パパ

奥田 変わろうとはするんだよ、でも無理なんだな、だけど努力はする、けどねえ、俺の場合、大抵途中で疲れちゃってさ、めんどくせえから殺しちやったりする、デブはどう？

堀 ごめんなさいね、デブは今ちょっと、情報が錯綜してまして、川島君！
川島 なに

堀 ちょっと連絡取らない間に、なんだか、いろいろエキセントリック、なので、あらためて紹介をお願いしたい(セリフの間に飛鳥が帰ってくる)

川島 奥田君だよ、最近知り合ったの

堀 ・・奥田さんは、ゲイで、いらっしやる

奥田 そうだけどさ、なんで知ってんだよお前

堀 ・・・いや、先ほどご自分で

奥田 言った覚えねえな

堀 ・・いや

奥田 嘘でしょ、ご自分で？俺が自分で？ゲイって言った？それほんとに俺だった？

堀 ・・ほんとに俺だったとは・・？

奥田 俺だったのかって、俺だったのかって、それは、俺だったのかつ、てこと

堀 ・・あ、なんかやだ

奥田 目を見る、デブ、俺の目を見る、それはほんとに俺だった？俺が自分で自分のことをゲイだっていったんだな？俺はデブとは横一線の関係でいたいけどさ、それはあくまでも目標であってね、今現在はどうしたって溝がある状態じゃん、だよね？俺はゲイだけど、自分がゲイであると言うことをお前に伝えるのはもうちょっと先の話じゃない？

川島 自分でゲイって言ってたよ

奥田 言ってた？まじで？ははは！デブ、お前、どんだけ俺を無防備にさせるんだよ！

堀 (涙がスーツと溢れるので手で拭う)

奥田 なんか泣いてるよ？

堀 そうなんです、なんか泣いちゃって、なんでだろう、恥ずかしい

奥田 そうなんだよ、俺ゲイでさ、あ、でもね、こいつとどうこうってないから、いや

堀 あ、なんつうのかな、例えばね、熱帯魚って食べても美味しくないじゃない？

堀 一回！くださいませんか！すぐ回します、すぐ回しますから、一回僕にバッテリー

ボックス立たせてくださいませんか！すぐ回します、すぐ回します！・・・で、そちらの方が、奥田くんの、妹さん、で？妹さんからすると、川島君は？

パパ

飛鳥
奥田 うん、まあ、パパって

堀 すぐ回します！もうちよつとだけお願いします！すぐ回します！

川島 もちろんパパじゃないよ？呼び方がパパなだけ

堀 呼び方がパパなだけ・・・え、なんでパパって呼んでるんですか？

飛鳥 恋人だから

堀 恋人だからね、なるほど・・・

奥田 そうだ、パパと言えばさ

堀 カキン！カキンファールチップ！粘ってます！まだ終わってません！まだバツ

奥田 ターボックスにはデブが立っております！

堀 奥田 いつ終わるんだよ

堀 終われないでしょうよ！川島君、そんなところで冷静に鎮座している場合じゃない！大変だ！ここにいる全員が痛い事になっている！

川島 なってないよ別に

堀 なってるよ！とりあえずで言えば俺だよ、俺はひとまず、痛い事になってるよ！

川島 なにが

堀 いや、だって、俺、川島君の恋人に頼まれてここ来てるんだよ？これはだって、

川島 そのまま伝えられないやつじゃない

堀 いや、だってね、あいつとはとっくに別れたよ？

堀 違うじゃない、別れたっていうかさ、お袋さんにバチンと、蓋された訳でしょ？

川島 そんなで、ギクシヤクしちやっただけでしょ？本人はあれだよ、今でも川島君と付

堀 き合ってると思ってるよ

川島 いや、でも、それも仕方ねえかなと思うしさ

堀 仕方ねえって、でも川島君さあ、彼女のために働こうとしてたじゃない、なんて

川島 いうか、まっとうな生活に向き合おうとしてたじゃない、そんな川島君見るの初

堀 めてだったから、あ、これは本物なんだなって思ってたよ？ごめんなさいね、新

川島 しい恋人さんの前でこんな事言うのもアレですけど、僕ら横一線ですもんね、い

堀 いよね！

川島 でもなんの連絡もなかったし

堀 連絡、だってできないじゃない、お袋さん・・・つうか、お袋さん今日いないの？

堀 大丈夫？

川島 ああ、あいついなくなった

堀 え？どうということ？

川島 あの日、あのあと、帰り道で殺した

堀 ……まあ、それはそうとしてもさ！

川島 いやいや、ほんとだって

堀 帰り道で殺したんでしょ、わかったよ、おめつとさん、やったね！

奥田 ねえ、ねえねえ、どう思う？こいつさ、その子と一緒にいたらほんとに、まっとうな生活できたと思う？

堀 できたと思いますよ

奥田 本当に？お袋さんの言うように、一生ドブガエルのままだと思わない？

堀 いや、ちがうんだ、それはね、環境が整ってなかっただけなの、なんつうか、壮絶な、壮絶な感じだった訳ですよ、でも川島君の心根はここになかった、抜け出したくても抜け出せない明確な理由があったの、それは俺分かる、ちつちやい頃から近くで川島君見てきたし、それは俺知ってる

飛鳥 でもわたしパパはドブガエルでいいと思う、変わる必要ないと思う

堀 違うの、環境がドブだっただけで、本当の川島君はドブガエルじゃないの

奥田 そうあって欲しいってだけじゃないの？

堀 はい？ん？え？なんだ！

奥田は立ち上がり、堀の気持ちを代弁するかの如く

奥田 俺だけが君の本当を知っている、それはとてつもない優越感である

堀 ……は？

奥田 俺が信じている君の本当が、君にとっての本当だろうがなからうが、実は大した問題ではない

堀 ……

奥田 俺がこれだけ君を信じているんだから、君はその思いに応えるべきである！

堀 ……

飛鳥 そういうことだったー

飛鳥、奥田、川島、三人でキヤイキヤイキヤイ

堀 違う、違うの、やめて、やめる、バカ！

奥田 (急に激怒) バカは殺すぞおうコラ！

堀 (硬直して呪文のように) スイマセンスイマセンスイマセンスイマセン

川島 堀くん、色々ありがとうね、けどもう、大丈夫になったから

堀 ……え？

川島 俺もう、この家出て行くからさ、堀君と会う事もあんまりないと思うけど

堀 え？

川島 三人でき、旅でも回ろうかと思ってんの

堀 ……いや、でも、お袋さんが

川島 だから、あいつはもう静かになったから

堀 ……

川島 堀君はさ、俺にとって、多分ね、この世で唯一の友達なんだと思うんだよ…違
うかな、何だろうね、堀君は、なんだろうね

堀 友達でいいじゃないか、友達って言い切ってくれよ

川島 友達がなんなのかよく分からないからさ、なんだろう、うまい言葉が見つからない
けれど、堀君ってさ、あれだよね、うん、なんだろうね

奥田 え、え、じゃあさ、お前にとって俺はなんなの？

川島 お前は、共通の趣味を持つ、なんだろう、相棒みたいなもんかなあ

飛鳥 わたしは？

川島 お前天使じゃねえかよ

堀 川島君！変わったね！そんな、天使とか、川島君変わったね！

川島 だいすき…だいすき！

堀 変わったね！川島君変わったね！

川島 俺ねえ、こいつと会って、はじめて愛というものを知ったような気がするよ

堀 え？

川島 俺はさあ、みんなが言う所の愛をなぞろうとしてたよね、そこに加わろうと必死
に誰かを愛そうとしてたけどね、あれは愛じゃなかったよね、これが愛だね、こ
れしか愛じゃないね、好きになろうと思って好きじゃないんだもん、好きじゃな
きゃいけないで好きな訳じゃないんだもん、ただひたすらに、わからない、愛し
ている

堀 変わったねえ

奥田 ねえ、デブにとってこいつは何なの？

堀 友達ですよ！

奥田 友達なんだ

堀 友達ですよ、俺にとって川島君は、かけがえのない友達ですよ！

川島
・・・

堀 ・・・やだ！

川島 違うんだよ、だってね、友達が俺には分からないから

堀 自分のことをこんな風に言うのはあれだけど、堀君はさ、川島君の周りには有象無象とは違うでしょ！？川島君の中で堀君は何だか特別でしょ！？

川島 確かに、世の中死んでもいい奴しかいないけど、堀君は違うなあ

堀 そうでしょ！？厳密に言えば死んでもいい奴なんかこの世にはいないからあ！

川島 俺なりの柔らかい解釈で川島君の言葉をお皿に並べますと、世の中の誰が死んでも悲しくないけれど、堀君が死んだら悲しくてたまらないという事だね！？

堀 ・・・悲しくはない

川島 やだ！

堀 ああ、でも、やっぱり俺デブの気持ちわかるなあ

奥田 ・・・はい！？

堀 こいつが特別だから、自分もこいつにとっての特別でありたいんでしょ？

奥田 え？

堀 こんなさあ、人殺すことに抵抗のない奴あんまりないもんねえ

飛鳥 お兄ちゃんだってそうでしょ？

奥田 俺はだって、楽しいからスイスイいけるよそりゃ

飛鳥 パパは楽しくないの？

川島 ・・・まあ、そこそこかな

堀 ・・・

飛鳥 ・・・うふふ

堀 うふふではないよね、うふふに辿り着く会話はしてなかったですよ？

川島 まあ、だから、堀君、なんかよくわからないけど、ありがとねって話

堀 ・・・

川島 よく分かんないけど、堀君にはいつまでもそのままいて欲しいと思うよ

奥田 え？こいつどうすんの？

川島 どうすんのってなに？

奥田 殺さないの？

川島 殺さないよ、さっきさういう話してたじゃん

奥田 え？大丈夫なの？俺てつきり殺すもんだと思ってたからそのつもりで喋ってた

川島 大丈夫、堀君は、俺に、とことん優しいから

堀

・・・なんの話をしてるの？

(転換)

十十

舞台上、公園、テーブルを挟んで小野とわたなべが座り、二人を見る形で澤が座っている。

わたなべ

あなたはこれから先、誰の事も愛せないし誰からも愛されません

小野

・・・

わたなべ

仮にね、この言葉が小野君を苦しめているのなら、私はもう、大歓迎、大満足

小野

あきこちゃん、軽い気持ちでそういうこと言っちゃいけない、ちよつとした火遊びが山ごと燃やし尽くす大火事になる事だってあるんだよ

わたなべ

変な夢見るだけでしょ、足りないわ、全然足りない、もつと本腰入れて呪わないといけないと言う覚悟を本日、この時間で頂きました

小野

あなただって危ないんだよ、いや、寧ろ、現時点ではあなたの方が危ないんだからね！？

わたなべ

はあ？

小野

あなた、あの夢に出演者として参加していましたから！

わたなべ

え？

小野

冒頭、殺人犯の彼女役、エキストラと似たり寄つたりの軽い扱いなのに、私達の仕事はほつといて下さいみたいなセリフを一生懸命言つてた！あんなチョイ役で頑張つても一生売れないのに、プライド持つてあの役に取り組んじゃつてた！危ない！

澤

ゆたか、言い方含めて諸々大丈夫かな？

小野

俺だつて出演まではしてないのにあなたひよつこり出たからね、このままじや現実世界に不幸が訪れるのは間違いない、今すぐ呪いを解いた方がいい

わたなべ

この人は何を言つてるの？

澤

うん、まあ、そうなんだよね、なんだけど、まあ、あれじゃない？呪いを解く解かないじゃなくてさ、あんなの本気じゃありませんでしたよつというぐらいでいいと思うよ？

わたなべ

そこはごめんなさい、そこは本気で全力

澤

あ、そうなんだね

わたなべ

この人が私にした仕打ちを考えたら全力でいくでしょう、だってね、この人、あたしに隠れて浮気してたんだよ！

小野

あなたに隠れてしていることを、いちいち掘り起こして騒ぎ立てるのやめなさい、あなたそれ、やつてることは墓泥棒と一緒ですよ、墓泥棒と一緒だね？

澤

・・・そうなの？

小野

隠れて姑息な真似をしている俺じゃなくてね、あなたの前で堂々とあなたを愛する俺を見て欲しい！見えてるものを見ずに、隠れてるものだけ見ようとするの、おかしいと思う！

わたなべ

全然わかんない

小野

じゃあもう伝える術はないよ！

澤

嘘だよ、俺でさえ途中でちよつと、ゆたかから離れたよ？

わたなべ

澤くん、聞いて、浮気だって一度や二度じゃないんだから

小野

あきこちゃん、あきこちゃんね、その辺でやめた方がいい、そろそろにした方がいい

わたなべ

なんでよ

小野

俺があなたにした事は、澤くんには関係ない

わたなべ

私がされたことを誰に言おうが私の自由です

小野

あきこちゃん、あきこちゃん

わたなべ

なに

小野

みつともない！

澤

ゆたかはもう、気持ちがいいな、俺はゆたか大好きだよ

小野

あきこちゃん、聞いて、これはね、俺にしかわからないことかもしれないけど、夢に対しての距離感が、どんどん近づいてるような気がするのよ

わたなべ

どういうこと？

小野

最初の頃は遠くからみてる感覚だったの、でも最近はもう、あいつらに近いところからみてる感じで、これ以上近づいたらヤバイって分かるんだよ

澤

でも、あきこちゃんはそこに出演してたんだよ

小野

そうだよ、だからもうあれだよ、死にますよ、いや違うの、なんか、三人で旅に出ただけで、それだってただの旅じゃないんだ、行く先々で人を殺して回っている、そういう、いかれた旅なんだよ、で、相棒って呼ばれてる男がいるんだけど、そういうも、もう、とびっきりのきちがいでき、アキレス腱を切って動けなくしてから原っぱにほっぽり出して、そいつを車でゆっくり追い回して轢き殺すのが大好きっていう、快樂殺人者だよ、殺した相手のペロを切り取って保存して、それを弄ぶのが大好きな異常性欲者だよ、そいつと一緒に殺人を繰り返してるんだよ、いま、そういうことになってるんだよ

澤 俺たちどん引いてくけど大丈夫？

小野 あなたそういう世界に巻き込まれてるんだよ、嫌でしょ？

わたなべ 別にいい

小野 はい嘘だね、絶対嘘

わたなべ 私はだって、そんな夢見てないし、小野君が勝手にうなされるだけでしょ
なんでそんなこと言うの！あなたが心配だから言ってるんだよ！

わたなべ それこそ絶対嘘だよ、小野君は自分のことしか考えてないでしょ

小野 どう言うことよ

わたなべ 呪いの言葉なんか信じてないけど、なんかモヤモヤするから取り消してほしい
なって、そう言うことなんでしょ？

小野 違うんだって！夢に出てくる殺人鬼の男が母親に色々言われるんだけど、それがもう、あなたが俺に言ってくる言葉と大差ないんだよ！

わたなべ ・・例えは何を言われるの

小野 あんたは一生、私の奴隷なんだよ、って

わたなべ ・・・そんなの言ったことないでしょ！

小野 俺のこと、一生離さないとか言ってたじゃない！

わたなべ それを何！？自分が奴隷として扱われた言葉として受け止めていたの！？

小野 そこまでは思ってたけど、一生って言われたからちよつと、やべえなって
思ったのは事実だね！

わたなべ だったら、一生一緒にいるかは分からないって言えばよかったじゃない！

小野 そんなの言える訳ないでしょ

わたなべ 何だよ

小野 あなたがかわいそうじゃん

わたなべ ・・・

澤 ・・・

わたなべ 私ね、小野君のこと、本当は愛してなかった

小野 ・・いや、そういうのさあ

わたなべ 本当に愛してたら、自分のものにしようなんて思わないと思うから

小野 ・・・

わたなべ ごめんね、私、自分のことしか愛してなかったわ

小野 ・・・

わたなべ ということで、あらためて宣言というか、今までもそうだったんでしょうけど、

あえてここでもう一度言わせてもらいますけど、あなたはこれから先、誰の事も

愛せないし誰からも愛されません、自分の事すら愛せないし、偽った自分でも誰からも愛されません

小野 ・・ねえ、今もし俺がさ、誰かを愛してるって言ったらどうすんの？

わたなべ ああ、それね、違うから、それ愛してないから

小野 あなたには分かんないでしょ、俺の気持ちなんだから

わたなべ ごめんね、愛じゃないんだよそれ、ごめんね、あなた人愛せないから

小野 愛せますー！

わたなべ 愛せないんだよ、ごめんね、愛せないし愛されないの、これから先、こいつこそ

が愛という文字を捧げるにふさわしいという人に出会うかもしれない、これこそが愛されているという事だと感じる瞬間があるかもしれない、でもそれね、申し訳ない、愛じゃない、後々わかる、それはね、愛じゃない、偽物

小野 別にいいもん、俺は別に、愛なんかいららないもん

やめてよ、そんな寂しい事言わないでよ、愛が欲しくてたまらないから色んな人と触れ合ってるんでしょ？だから小野君にはいつか本物の愛に包まれて欲しいんだけど面目無い、誰もあなたのこと好きじゃない、今までも、これからも

・・・あきこちゃん！

わたなべ 早くお金返して！

小野 ・・・(澤を見て)・・返しました！

澤 いや、ゆたか、いいよ、俺にカッコつける事ないよ、意地の張りどころが違うよね？危険ドラッグが効いてるのかな？

小野 ちよっと待って、なんでそんな、ここでそんな、澤さんの前でさ

わたなべ 何か都合が悪かったですか

わかったわかった、もういいもしいい、俺はほんと、あきこちゃんの為にと思っ
てさ、それをさあ、ひどいじゃん、ああそうですか、分かりました、わかりまし
たよ、お金ね、返します、夢の中で返しますよ、そこまで取りに来なさいよ！

澤 お

小野 大好きだったのにさ、なんだよ、大好きだったのにさ、なんだよ

澤 やや

小野 夢の中に引きずり込んでやる！後悔したって遅いんだからな！

澤 さらら

小野 うるさいな！なんだよ！

澤 あ、ごめん

小野 見るも無残に、殺されてしまえ！

小野、怒ってその場を後にする

澤 ・ ・ ・ 気持ちわかるけどさ、裁判だけは避けたいところだよね

わたなべ ほんとに何かがあの人に起こってるとして、それで追い詰められてるとして

澤 うん

わたなべ それがね、私が言った言葉が引き金だとしたら、ほんと嬉しいわ

澤 そこまでなんだね

わたなべ 一生一緒にいるつもりないって、あの時言って欲しかったなあ

澤 ゆたかの味方する訳じゃないけど、それはでも、言えないでしょう

わたなべ 私がかわいそうだから？

澤 ・ ・ ・

わたなべ その時言われてれば、今、ここまでかわいそうな事にならずに済んだけどね

澤 ・ ・ ・ なるほど

(転換)

+++

舞台上、川島と飛鳥がソファに座っている、飛鳥はベレー帽を被り、丸メガネをかけ、つまりは漫画家の格好をしている。

川島は飛鳥の足にペディキュアを塗っている

飛鳥 ねえ、いいでしょ

川島 ・ ・ ・

飛鳥 ねえ、パパ、いいでしょ

川島 辞めた方がいいって

飛鳥 なんて、ねえ、いいでしょ、漫画家になってもいいでしょ

川島 ・ ・ ・ なんて急にそんな

飛鳥 だってさ、いつもパパとお兄ちゃんが外行ってる間ずっと部屋で漫画読んでるんだよ？漫画しか楽しみがないんだもん、漫画家になってもいいでしょ
川島 読むの楽しんでればいいじゃない、書く方に回ることないよ

飛鳥 この格好で漫画描かないなんておかしいよ、変な人だと思われるよ
川島 だから、それもね、俺はどうかと思ってるよ？

飛鳥 思い入れの強さだよ、固い決意を示す為だよ、寝る時以外はもうこれだよ

川島 ほんとに辞めてほしいよ、ほんとに、ほんとに辞めてほしい

飛鳥 パパとお兄ちゃんは楽しいことやつて、なんで私はやっちゃいけないの？

川島 やっちゃいけないって事じゃなくて、いや、描くのはいいんだよ、ただ描くだけならいいけど、漫画家になりたいんでしょ？

飛鳥 そうだよ、きちんとした雑誌で連載したいんだよ

川島 だから、それがさあ

飛鳥 絶対大丈夫、絶対描ける、描きたいものだってもうある

川島 どのなの？

飛鳥 ここでどんな話か言っても面白くないよ、絵にしなきゃ面白くないんだよ

川島 でも一応言ってみてよ、どんなの描きたいのか、一応聞かせてよ

飛鳥 ・・・主人公が男の子なんだけど、ちんこがないんだよ、だからさ、コンビニ行くんだけど安いのしかないのね、安いのっていうか、よく見るとちんこじゃなくってちんこっぽいやつだったりして、騙されたって言ってね、コンビニの中をグルグル回ってやつと見つけるんだけどよく見ると 아이폰 用って書いてあるの、危ないところだったって、ほっとちんこを撫で下ろすんだけど、その時に気付くんだよ、ああ、僕には、撫で下ろすちんこがないんだと

川島

飛鳥 ほんやだよ、絵にしなきゃ面白くないんだよ

川島 絵にできないじゃない！ちんこは絵にできないじゃない！

飛鳥 なんで怒るの、できるよ、練習でちんこばかり描いてるよ、だからもう、写真みたいなちんこ描けるよ

川島 雑誌に載せたいんでしょ！？雑誌でリアルなちんこは無理じゃない！なんか

さあ、ほんと、悔しいことばかりしてるよ！

飛鳥 最後は宇宙船になるんだよ！

川島 ちんこがでしょ！？センスは嫌いじゃないんだよ！ただもう、筆を進めても絶対に悔しいことになるから辞めたほうがいいって！

飛鳥 描きたいんだよ、これしかやりたいことがないんだよ！

川島 ・・・そこまでならば俺も描いて欲しいよ、雑誌もさあ、ちんこ載せるよなあ！？
(頭を抱えて座り込む)

飛鳥 そうでしょ、だってさ、漫画の主人公、モデルはパパなんだよ！？

川島 そうなんだ、話が変わってくるよ、なんだよ、どういうこと？

飛鳥 だってパパ、ちんこがさ・・

川島 ・・・あるよ、あるじゃない、え？俺、あるよね？ないの？

飛鳥 あるんだけど、ないっていう、なぞなぞみたいになんこじゃない

川島 なぞなぞみたいになんこではないよ、なぞなぞみたいになんこって何？

飛鳥 だって、パパのちんこ、あるのに使い物にならないじゃない

川島 とんでもないこと言うなよ、なんだよそれ

飛鳥 だって・・

川島 いや、いやいや違うって、お前に使わないだけで、他では全然使うって

飛鳥 ほら！それがだって分からないんだもん

川島 だってセックスって汚いもんだから！お前汚したくないだけだよ、セックスが

したくなったらそこら辺歩いてる奴でパパッと済ませるような事をだよ、お前

には出来ないよ、お前はさあ、そういうのじゃないんだよ

飛鳥 だから、それを漫画にするんだよ！

川島 お断りだよ！俺はどっちかって言ったらちんこが無ければ良いと思ってる方だ

よ、ちんこ探していつか宇宙船になれなんて微塵も思っていないわ！

飛鳥 逆説だよ、逆説、逆もまた真なりっていう、哲学的な漫画だよ

川島 それを雑誌に載せたいっていうのがもう分からないもん、俺のちんこに対する

不満があるなら直接言えばいいじゃない、漫画にする事絶対ねえよ

飛鳥 だって私はパパの事しか考えてないから、思い浮かぶ事ってパパの事しかない

から、何考えたって最後はパパに繋がっちゃうから

川島 いや、それは、俺だってそうだけど

飛鳥 パパがなんでそうなんだろうって思うと、こうなのかな、どうなのかな、こうだ

ったらしいのにな、そういうのが膨らんでベレー帽の中に溜まるんだよ、ベレー

帽の中、パパでパンパンだよ、溜めたら出さなきゃいけないじゃない、パパだつ

て溜まるから仕方なく外で出すんでしょ？私だってそれと一緒にだよ

・・・

川島 ちよっと違うかもしれないけど

飛鳥 違うかもしれないけど、でもまあ、うん

川島 人殺すのも別に良いし、だって楽しいんだもんね？

飛鳥 うん

川島 外で出すのも別に良いし、だってしょうがないんだもんね？

飛鳥 うん

飛鳥 私だってセックスなんて汚いもんだと思ってるよ、だから全然いいんだけど、な

んとなく、なんとなくね、もしもいつか私たちがこのまま進んで、なんだろう、

セックスしなきゃもっと先に進めないと思った時か、愛情とセックスが結びつ

く時が来たらね、二人でちんこの宇宙船に乗りましょうって、そういう話
川島
・ ・ ・ いや、俺

飛鳥
そういう時が来なくても全然いいんだよ？今のままでも十分幸せなんだから

川島
・ ・ ・

飛鳥
大丈夫、私はパパの、一生の恋人だよ

母親が出てくる、川島はそれに気がつくが、飛鳥には見えない

飛鳥
パパ、どうしたの？

川島
・ ・ ・ (母親を見ながら) セックスなんて汚ねえよ

飛鳥
うん、だから、それでも全然いいんだよ

母親は二人に近づいてきて、飛鳥の至近距離に立ち

母親
可愛いお人形さんだねえ

飛鳥
・ ・ ・ パパ？

母親
あんた、このお人形のことを好きなのかい？

飛鳥
パパ、どうしたの？

母親
私はねえ、ほんと女の子が欲しかったんだけどね、だって女の子ができれば一緒に商売できるじゃない？だけどほら、それこそちんこが付いてきちゃったから、付いてきたもの取るわけにもいかなから困っちゃってねえ、しょうがないから頭にパーマかけて、スカート履かせて学校行かせてた時期があったんだけど、そのせいかねえ、あんた、実の兄貴とねえ
川島
うるせえ

母親
可愛いお人形さんだねえ

川島
・ ・ ・

母親
あんた、このお人形の事が好きなのかい？

川島
・ ・ ・

母親
また角材で殴りたいの？お母さんもう殴りたくないわあ、どうなの？好きなの？どうなのよう ・ ・ ・ ハッキリ言いなこの変態野郎！

川島
(飛鳥の頬を手で触り)

飛鳥
・ ・ ・

川島
好きだよ

飛鳥 ・・わたしも

母親はニヤニヤと笑っている

川島 大丈夫、もう、なんにもできねえから

飛鳥 ・・？

母親とは反対側から奥田がビールを持って入ってくる、奥田はそれを二人に渡す

奥田 ほい、ほれ

二人はビールを受け取り、奥田は奥のテーブルへ向かう、テーブルには北島と晴が座っていて、北島の後ろには上田が立っている。母親は出て行って、場面はパブのような場所に変わる

奥田 なあ、あのおっさんたちのところ、しばらく住んでも良いってさ

北島 やあやあやあ

奥田 なんか、この近くに施設があって、そこで宗教やってるらしいよ

奥田は飛鳥を連れて北島たちの方に行く、川島はみんなと離れた場所に座る

奥田 こいつ俺の妹なんだけどさ、こいつだけ、じゃあ、お願いしてもいいかな

北島 やあやあやあ、妹さんだけですか？何人でも大丈夫ですよ？

奥田 ああ、いや、俺たちはやる事あるっていうかね、ちよつと、しばらくここ離れてさ、旅回りっていうかね、出ようかと思ってる

北島 え？でも、そもそもは、旅行でこの町に来たんじゃないんですか？

奥田 そうなんだけどね、ちよつと何だかさ、この町では、やりつくした感があるって
いうかさ、潮時みたいな感じでさ、場所変えようかなって思ってるのよ

飛鳥 そこって、何人住んでるんですか？

上田 今は信徒が20人ほど、共同で生活しております

奥田 でも、あれだろ、宗教だけどさ、別に宗教入らなくてもいいんだよね？

北島 全然構いません、建前と違いますか、名目上は全員信者という扱いになります、
心のありようは人それぞれですから

奥田 え、でもさ、ほんとに金ないよ？

北島 お金なんかいららないですよ、みんなほぼ無一文で飛び込んできた連中ですから
上田 身寄りのない方や路頭に迷っている方に施設を開放する、それこそ私たちが神
に与えられた使命だと思っておりますので

奥田 偉いよねえ、神様なんかいないのにねえ

北島 いないですよねえ、いないんだほんとにあいつは

奥田 あれ、いないと思ってるの？

北島 いて欲しい時にいないという意味ですけどね

上田 ですから、誰でも常に神様と触れ合える場所を作りたいと思ひまして

奥田 ちよつと待って、それ、(晴が付けている大きなネックレス) どうしたの？

晴・・・え？

奥田 昔さ、俺のお婆ちゃんが同じようなの付けてたんだよ

北島 やあやあやあ、これはですねえ

奥田 お前って悪魔が大好きな人？

晴 え？

奥田 悪魔が大好きな人がつけるやつだよねそれ

晴 いや、いやいや、違います

北島 これはですねえ

奥田 え、でもさ、悪魔が大好きな人が、悪魔が大好きなグループの偉い人から貰うやつだよねそれ

晴・・・お婆ちゃんが、そうだった

奥田 そうそう、そんなもんになんの意味があるのか俺には分からなかったけど、お婆ちゃんももう、絶対欲しいって頑張ってたからさ、俺も手伝うよって言って、二人でお墓荒らしたりとか色々やってたんだけど、なかなか貰えないから、お婆ちゃんがもうやだ！って言ってきて、背中に悪魔の絵を書いてくれてナイフを渡してきたからね、俺はもう、絵柄としては悪魔なんだけど、気持ち的には優勝トロフィー描くつもりでさ、背中にこう、ナイフでゴリゴリやり始めたらお婆ちゃんが「痛い！」って言うからね、「痛くない！」って言ってきて、それでもお婆ちゃんが「痛い！」って動くからさ、「痛くない！」って押さえつけて、だってこっちは死なないように手加減してるし、何よりお婆ちゃんの為になることをしてる訳だから、痛いとか言っちゃいけない！お婆ちゃんに足りないところはつまり、そういうところだよ！って思ってたけどさあ、よく考えたら痛いよな

晴・・・

奥田 それだよね？

晴 違います！全然、あの、違います！
奥田 え、でもさ
晴 これは、あの、神様の印というか、そういう、あれなので
奥田 うん？
北島 晴はですねえ、神様の生まれ変わりとして
奥田 え？
上田 晴が赤ん坊の時、近くの納屋に捨てられてたんですけど、その時、晴の体に聖痕
が刻まれていたので
北島 聖痕ですね、イエス・キリストが磔になった際についたとされる傷です
奥田 ・・でもお婆ちゃんが
上田 あれじゃないかしら？神と悪魔は同一人物だとする説もありますから、そのの、
あれで、似たような形のネックレスに、ねえ？
飛鳥 神様って何が出来るの？
晴 え？
飛鳥 神様なんでしょ？何が出来るの？
晴 ・・
北島 神はあなたの犯した罪をお許しになります
飛鳥 え？
上田 どんな罪でも一旦許されたなら、永遠に、永久に許されるのです
北島 そうして、もう過去の罪のことで責められたり罰したりはされません
上田 ですから、うちに来る人々は、自らが抱えている罪を晴に許して貰い、重荷から
解放され、健やかなる時間を過ごすことを
飛鳥 他には？
上田 ・・え？
飛鳥 許す以外には何が出来るんですか？
上田 他・他・他？
飛鳥 え？許すだけ？
北島 やあやあやあ、しかし罪を許すことができるのは神だけです
飛鳥 ・・(悲しい顔)
北島 あれ？
飛鳥 ・・(顔をパンと叩いて) あの、お世話になるところって、漫画描けますか
北島 描けず描けます、なんでも描けます、どんな漫画を描かれるんですか？
飛鳥 ちんこの漫画です

上田 キヤ

北島 ・・やあやあやあ

上田 (嬉し恥ずかし) イヤー!

晴 ちよっと待ってよ!なんかやだ!

飛鳥 え?

晴 今さ、無理やり飲み込んで次に進めようとしたでしょ

飛鳥 ・・私にできることは、それしかなかったから

晴 やめてよ、なんか、そんな気持ちにさせてごめんね、でもやめて、申し訳ないと
は思うけど、こっちにも申し訳ないと思わせる様な事しないで欲しい

飛鳥 どういう事?

晴 私だってね、私が罪を許したところで、それがなんなのさって思っではいるよ?

飛鳥 思ってるの?

北島 やあやあやあ、晴

晴 例えばね、あなた、あなたが人を殺したとします

飛鳥 私は殺さないよ

晴 殺さないかもしれないけど、例えば!例えば!でも!あなたは、ないか・・よし、

晴 あなた! (奥田) あなたが人を殺したとします!

上田 晴!あるかもしれないところ選ぶのやめなさい!

晴 あなたが人を殺したとして、あなたの中にこびりつく罪悪感、拭っても拭っても

奥田 まとわりついてあなたを苦しめるそれ、その正体はどこから来るものですか?

奥田 それは、人を殺して、なにが申し訳ないと思うかって事?

晴 そう、そういう事

奥田 思った事ねえなあ

晴 ・・思った、ことが、ねえ・・?

奥田 あ、いや待って、罪悪感・・うーん、あ、お前も悪いよとは思うかもしれない

晴 ・・それは、罪悪感じゃ、ないっす

奥田 うん、そうなんだけど、それこそ例えるならさ、車で高速道路を走ってるところ
に歩行者が飛び出してきたから轢き殺しちゃったとして、どう思う?

晴 ・・

奥田 お前も悪いよって

晴 ならない!ならないです!

飛鳥 ちよっとはなるでしょう

晴 ・・ちよっとはなるかもしれない!けど!え?え?それはあれですか?致し方な

い殺人の話ですか？

奥田 致し方ない殺人の話？

晴 例えば部屋に強盗が入ってきたから、必死に抵抗した結果殺してしまった、それはもう、お前も悪いよね、仕方ないよって話？

奥田 いや、そんな、なんだろう、暗いイメージじゃなくつてき、もうちよっとカラフルな、キラキラした感じの、あれだよ、あの、高速道路の話

晴 うん、だからそれがね、高速道路がさ、高速道路がもう全然、ごめんなさいね、高速道路がもう、全然私にハマらない

奥田 高速道路って車止められないからさ、俺にはどうしようもないじゃない
晴 え？

飛鳥 どうしようもないところに飛び込んでくるお前も悪いよって事だよ
奥田 そうそう

晴 ・・なんの話をしてるの？
飛鳥 どうしようもないんだから、それこそ、致し方ないよねって話

晴 ・・だとしても！罪は罪として存在するでしょう！？致し方なく殺人を犯したとして、それでも人の命を奪うなんて許される事じゃない
飛鳥 でも、それを許してるんじゃないの？

晴 そうだよ、私如きが許したところでどうなるもんでもないのに、救われたような気になって、分かる？つまり、私はね、被害者を差し置いて、加害者をスッキリさせるだけの存在ですよ！

上田 晴！いい加減にしなさい！

晴 だって、だって私は・・

飛鳥 それでも

晴 ・・・え？

飛鳥 それでも、あなたが許す事で救われる人がいるなら、それで良いんじゃない？

晴 ・・・

飛鳥 私は、そういう人でありたいなっいつも思ってるよ

晴 ・・

そこに櫻井と小川が入ってくる

櫻井 あんまり人いないね

小川 まあ、それはでも、そうでしょう

櫻井 (奥田たちに近づいて) どうも

奥田 や、どうも、誰?

小川 すいません、警察ですけど、ちよつといいですか?

北島 なんですか?

小川 ご存知でしょうけど、最近ここいらで殺人事件が頻繁に起こってます

北島 ニュース騒がせてます

小川 騒がせてますよね、ですから、夜の外出はなるべく控えるようにという・・・

北島 私は大丈夫ですよ、私は神に守られますから

小川 ・・そう、なのかもしれないですけど、用心に越したことはないの

櫻井 つうかさ、こんな時に外で酒飲むなんて馬鹿か死にたがってる奴なんだからほ

つときゃいいんだよ

小川 そういう訳にもいかないじゃないですか

奥田 それか犯人じゃない?

小川 え?

奥田 こんな時に外で酒飲んでる奴

櫻井 ・・俺も酒飲もうかな

小川 え?

櫻井 もうちよつとここにいる事になりそうじゃん

櫻井はカウンターへ

櫻井 すいません、おい、ちよつと、誰かいないの? すいませーん

小野と澤がゆつくりカウンター下から姿を現す

櫻井 いるじゃねえかよ、なにしてんだよ

小野 すいません・・・

櫻井 ビール、小川くんは?

小川 俺もビールで

小野 はい、ビール、あの・・・はい、はいどうぞ

小野はビールを櫻井に二本渡す、櫻井は受け取って小川に一本渡し

櫻井 俺もちょっと座っていいかな？

北島 あ、はい

櫻井は北島を立たせ、そこに座り奥田と向かい合い、微笑みつつ奥田を見ながらビールを飲む
小川がカウンターの前からその様子を見ている

沈黙、澤が小野の肩を叩く

小野 いった！

一同、小野を見る

小野 あ、いや、スイマセン・・・

一同向き直る、なんだか緊迫した空気、以下、澤と小野の会話は声のみ（録音）

澤 （あきこちゃん夢の中に引っぱり込むんじゃねえのかよ、何で俺だよ）

小野 （ごめん、いや、でも、俺も夢に登場したの初めてだから）

澤 （知らねえよ、なんで俺だよ、しかも初登場としては場面のレベルがたけえよ）

小野 （おとなしくしてたほうがいい、ここはひとまずやり過ぎたほうがいい）

澤 （これも分かんねえよ、テレパシーで会話ができていて俺達のこれは何だよ）

小野 （夢みたいなんだから、ある程度のなんでもありは標準装備なの！）

櫻井 おい、緊張すんなよ、犯人じゃないんだから

奥田 あ、ごめんね、全然してないよ？

櫻井 この町の人？

奥田 ううん、旅行

櫻井 みんな？

北島 いや、私は

櫻井 お前知ってる、お前宗教んとこの人

北島 ああ、はい

櫻井 （離れて座る川島に向かって）そっちは？

川島 ・ ・ ・

奥田 俺のともだち、（飛鳥を）妹

櫻井　　こんにちは、面白いかつこしてるね？

飛鳥　　漫画家目指してるんで

櫻井　　そうなんだ、すごいねえ、(川島に) そっちは？

飛鳥　　私のパパです

小川　　・・・随分、若いパパですね

奥田　　パパつつつてもね、パパじゃないんだよ、親戚のおばさんでもない人をさ、おばさんって呼ぶ時あるじゃない、あれみたいなもんでさ、100点でたね

小川　　・・・なに？

奥田　　理解しろよ、俺今、すげえうまいこと言えたんだからさあ、俺の100点を無駄にするなよ、とんでもねえなお前、塾行けよ、塾

小川　　バカにしてんのか、なんだお前！

櫻井　　なんでわざわざこの時期にこんな騒ぎのある町に旅行しに来たの？野次馬？

奥田　　違うの違うの、俺たちがこの町来た時は別に、静かなもんだっただけど、いつの間にかなんだか騒がしい感じになっちゃって、困っちゃうよね

櫻井　　この町なんにもないでしょ

奥田　　そんなことないよ、色々あったよ

櫻井　　なんもねえよ

奥田　　あ、でも、そうかも、あったけど、なくなっちゃったかも

櫻井　　・・・なんかさ、面白い言い回しするよね

奥田　　ありがとね、だからさ、この町出て他回ろうかと思ってんだよね

櫻井　　もうちょっといればいいじゃない、もしも泊まるどころないんだったら留置所案内するよ？

北島　　ああ、彼らはうちに来ることになってまして

櫻井　　お前はまたこの野郎、変なのばかり囲ってさあ、近隣住民から苦情が凄いや？

上田　　ご近所の皆さんとは仲良くやってますよ？

櫻井　　仲良くやってたら追い出しデモとか起きないんだよ

沈黙、会話の間、小川は櫻井たちを見ながら澤の顎の下をずっとクシクシしている

澤　　(ゆたか、俺さ、ずっとクシクシされてるんだけどこれはなんだろう)

小野　　(わからない)

澤　　(俺絶対人間じゃないものとして存在してるんだと思う、俺がなんだか聞いて?)

小野　　(やめたほうがいい、身を任せたほうがいい)

小川 櫻井さん、なんだかこいつらおかしくありませんか、詳しく話し聞いた方がいいですよ

櫻井 どうだろうねえ、ただのバカかもなあ

奥田 バカは殺すぞおうコラ！

小川 ・・・絶対おかしいですよ！殺すぞ言いましたよ、署まで引つ張りましょうよ！

飛鳥 ごめんなさい、お兄ちゃん、警察が嫌いなだけなんです

小川 なにか後ろめたい事があるから警察が嫌いなんだろう、そういう事じゃないか
奥田 後ろめたい事なんかなにもないよ？

櫻井 誰だって一つぐらいあるだろう

奥田 いや、俺ね、あの神様にも言ったんだけど、そういうの無いのよ

晴 ・・・

奥田 ごめんね、俺さ、お前たちとはちょっと違った種類の人間なんだよ

櫻井 ・・お前さあ、すげえな、どんな顔だよそれ

奥田 え？ははは、なにが？

櫻井 ははは、なにがどうしたらそんな顔できるんだよ、え？お前にはさあ、俺たちのこと、どんなふうに見えてんの？

奥田 え？ああ、途中からもう、死んでる奴にしか見えてないよ？

小川 ・・・超下級に怪しいですよ！怪しいっていうか、確定でしょうこれは！分からない！今の時点で殺人事件とどうこうっていうのは分かんないけど、こいつ掘り進めればなにかしらの犯罪にぶち当たりますよ、犯罪に繋がるトンネル見つけ！ですよ！

櫻井 ・・よし、こつちに聞こう、妹さん、ちよっとお話聞かせて貰っていい？

飛鳥 はい

櫻井 うん、その面白いの取ろうか

飛鳥 (帽子とメガネを取って)・・・

櫻井 三人で旅行してるんだよね？

飛鳥 はい

櫻井 なにか、悪い事してるんじゃないの？

飛鳥 (素直に笑顔で) 悪い事は、なにもしてません

沈黙

櫻井

気持ちわりい

小川 え？

櫻井 嘘がないね

小川 は？

櫻井 気持ち悪いぐらい、ほんとに、悪い事はなにもしてないって顔してるよ

小川 ・・気持ち悪いってなんですか

櫻井 俺もよく分かんないけど・・悪い事はしてないみたいだよ？

小川 いや・・

飛鳥 警察って悪いことしてる人を捕まえるんですよ？

櫻井 そうだね

飛鳥 じゃあ、悪いことしてる人を捕まえてください

櫻井 ・・

奥田 ねえ、なんでここに来ちゃったの？

櫻井 うん？

奥田 俺たちはだって、楽しく酒飲んでただけなのに、いきなり飛び込んできてさあ、

これはだって、これはだって、(晴に)なあ？

晴 ・・え？

櫻井 どういう事？

奥田 これはだって、お前も悪いよ

沈黙

櫻井 ・・ああ、そういう事かあ

小川 何？どういう事ですか？

櫻井 失敗したなあ

小川 ・・え？

櫻井 小川くんさあ、拳銃持ってきた？

小川 ないです

櫻井 だよね・・小川くんってさ、喧嘩強い？

小川 弱いです

櫻井 だよね、俺はさ、自慢じゃないけど、レタス食って歯が折れたことあるからね

小川 ・・それは、ほんとに自慢じゃないです

櫻井 ・・よし、小川君、行こうか

小川 いや、ちよつと櫻井さん

櫻井 行くよほら、いつまでも猫いじってないで

小野と澤、あ、という顔

小川 いや、でも、詳しく話聞いた方が良いと思うんですけど

櫻井 ・・悪いことは？

飛鳥 してません

櫻井 よし帰ろう

小川 ちよつと！

櫻井 それじゃ皆さん、殺されないように気をつけて

川島 そつちも

櫻井 ・・お気遣いありがとう

櫻井行く、小川も出て行く

飛鳥 お兄ちゃん、途中でもう、そのつもりだったでしょ

奥田 ははは、いいのかなこのままで、なあ？大丈夫かなあ？

飛鳥 でもそうしたら、ここにいる人みんなそうしなきゃいけなくなっちゃうよ？

奥田 ・・

小野と澤、恐怖のあまりごまかしつつ下を向く、北島は、うん？といった顔

飛鳥 そうなったら、私の行くところ無くなっちゃう

奥田 ・・困った奴らだなあホント！一生分のラッキー使っちゃったね！

北島 やあやあ、やあ？

奥田 それじゃ、俺たちも行こうか

北島 え？

奥田 お前んとこ、とりあえず行こうよ

川島以外動き出す。晴は飛鳥を見ている

飛鳥 どうしたの？

晴 ・・いや、別に・・

一同外へ出ていく、飛鳥は動かない川島を見て

飛鳥 ・ ・ ・ パパ？

川島 うん、行くよ

川島は立ち上がり歩き出すがすぐに立ち止まって、小野を見て

川島 ・ ・ ・ どっかで会ったことあるっけ？

小野 いや、ないですないます

川島が歩き出す、小野と澤はほっとするが、そこに堀が入ってくる

堀 ・ ・ ・ 川島くん

川島 ・ ・ ・ なんです？

堀 ・ ・ ・ もしかしたらこの町にいるんじゃないかと思って（探してた）

川島 ・ ・ ・ なんでそう思ったの？

堀 ニュース見てて、違う違うと思って、でももしかしたらと思って来てみたら、これはやっぱりそういうことなの？

川島 ・ ・ ・

堀 ちょっと、話しができるどころいかない？

川島 別にここでいいよ？

小野と澤はがつくり

堀 ・ ・ ・ 川島くん、どうしちゃったんだよ、おかしいよ、これはだって、違うじゃない、今更俺に何もできないこと分かってるけどさ、これは違うって、川島くんが屈折した形にならざるを得なかったこと、俺分かっているけどさ、ここまで来たら違っちゃうよ、違った形として捉えられちゃうよ

川島 なにが

堀 仕方ないを遥かに超えて、どうしようもないになっちゃうよ

川島 どうしようもないんだもん

堀 それじゃただのきちがいじゃないか！お袋さんと一緒だよ！

川島

•••

堀

(土下座して) 川島君、ごめん、俺だよ、俺昔からずっと、川島君に何かしてあげられたんじゃないか、川島君を助けてあげられたんじゃないかって思っていて、でも何も出来なかったし、なにも出来ない自分が不甲斐なくて、申し訳なくて、でもそれはさ、お袋さん含め、川島君周りの状況がどうしようもなかったから俺に出来ることなくても仕方ないって言い聞かせてたの、言い訳にしてたのかもしれない、いや、してた、どうしようもないを言い訳にして自分を正当化してた、川島君がこうなってるのは自分のせいじゃないって、どうしようもないんだって、頭を抱えながらもドーナツを頬張っちゃうような、そんな俺だった、ごめん！

川島

堀君のせいではないよ

堀

でも俺はそう思っちゃうんだよ、ぶっちゃけ！俺のせいではないかもな、関係ねえよ、ドーナツは美味しいな、そう思ってる自分もいた！けど、ニュースで事件が出てくる度にやっぱり湧き上がってきたっちゃうんだよ、俺のせいなんじゃないか、出来ることがあったんじゃないか、俺が何とかしてればこんな事にはならなかったんじゃないか、どうしようもない、どうしようもなかった、ああ！まずい！ドーナツがまずい！川島君！俺は最近めつきりドーナツがまずいよ！•••味はうまいんだよ、でもまずい！

川島

•••

堀

だから川島君、助けてほしい、助けさせてほしい、俺は今度こそどうしようもないを言い訳にしたくない、だって、どうしようもないは言い訳なんだよ、川島君は、どうしようもない人じゃないんだよ！お袋さんとは違うんだよ！

川島

何言ってるのか全然分かんねえよ

堀

•••

川島

堀君には分かんないと思うけど、人殺すのすげえ楽しいよ、そこになんだか難しい事が入り込む隙間も無くてさ、あれだよ、どんな時でもドーナツがうまいと感じちゃうのと一緒で、ただ単純に気持ちいいんだよ、それはだって、誰のせいでも何のせいでもないじゃない、うまいもんはうまいんだよ

堀

•••でも、でも川島君

川島

なんでもうまいと感じちゃうんだろ？なあとは思うよ？もし違ったら、それはそれで、堀君も嬉しいんだと思うし、いいなあとは思うけど、それこそさ、それこそどうしようもないんだよ

飛鳥

それでいいんだよ

堀 え？

飛鳥 パパはそれでいいんだよ

堀 こいつらでしょ、こいつらが川島君をそそのかしてるんでしょ！？

川島 そうじゃないって

堀 だって、好きだったらさ、好きだったらそんな事言えないだろ普通！

飛鳥 そうなの？

堀 そうだろ！？それでいいそれでいいってあんた言うけどさ、川島君の進む方向に何があるよ、破滅しかないだろ！？破滅って分かる？なくなっちゃうって事なの！そっち進ませるって事は、あんた川島君がいつかそうなってもいいってスタンスなんだよ、ほんとに愛してたら、いつか自分の横からいなくなる道なんか絶対進ませねえよ！お前の愛情なんて、ままごとみたいなもんだよ！

飛鳥 じゃあデブはパパの事どうやって助けるつもりだったの？

堀 は？

飛鳥 警察連れて行くの？そしたらパパ死刑になっちゃうよ？それってパパを助ける事なの？

堀 ……

飛鳥 パパ、もう、殺しちゃっていいんじゃない？

一同、沈黙、舞台上部（高いところ）に母親が出てくる、川島と小野以外には見えていない

母親 あんたは誰も愛せないし誰からも愛されないんだよ

川島 ……

母親 見てごらん、あんたのことを心から思ってる奴なんか誰もいないじゃないか、みんな自分のことばかりで、その自分のことの中に、実はあんたのことなんか少しも含まれてないんだよ

小野 ……

母親 愛したいのにねえ、悔しいねえ、愛されたいのにねえ、寂しいねえ

母親 クズは一生、誰からもクズでしかないんだよ

川島 ……（小野に）おい

一同 ……

小野 え？

川島 お前なんで見えてんだよ

小野 ・・あ、いや

川島 お前、見えてんだろ、なんで見えてんだよ

小野 ・・見えてないです

川島 見えてんじゃねえよ！なんだお前！

堀 川島君、なに、どうしたの

川島 いるわけねえだろ、いるわけねえのに、なんで見えてんだお前！

飛鳥 パパ？

小野 ・・がんばりましょう！

川島 ・・頑張りましょうってなんだよ！どこからのエールなんだよそれは！

小野 僕の立場からこんなこと言うのもアレですけど、愛されてるし愛してます！大

丈夫！愛されてるし愛してます！ね！？ね！？みんなね！？

川島、小野に突っ込もうと、堀が止める

堀 川島君、川島君待つて！ダメだ！ダメだ川島君！

澤がゆつくりと出て行く

小野 あ、出て行こうとします、逃がしちゃダメ！

川島 猫なんかほっとけい！

小野 違う！あの！僕の事もほっといて大丈夫です！

堀 (川島を抑えながら) 川島君！

小野 いや、僕はあの、殺す価値もないといいますが、逆に言えば僕が死ぬことで喜ぶ人間もいるって言うぐらいのもんなので、そうなるんですね、あなたが僕を殺すことで、あなた誰かに感謝されちゃうかもしれない、あなたの殺しに思いがけず変な意味が付け足されちゃうかもしれない、それはあなたの望むところではないでしょうか？あなた、だって、ただの変態ですもんね！？

川島 ・・なんで見えてんだよ！（再び突進）

小野 つうかななんだよ！夢だろこれ！夢なんだよ！あんたらこそなんで見えてん

だよ！そうだよ、あんたらこそ、なんで俺の事が見えてんだよ！

川島 は？

小野 夢なんだよこれは！夢だから！さようなら！ドロン！

小野はゆっくり出て行こうと

母親 どこ行くんだい

小野 なんで見えてんだよ！夢なんだよ！？おかしいじゃないか！そうだよ、おかしいんだよ、お前が見える事がなによりもおかしいんだよ！

母親 なんでだい

小野 なんでって、だって、お前死んでるじゃねえか！・・・俺が殺したじゃねえか！

川島 ・

小野 ・・・・あれ？ちがう、俺じゃなくて・・・(川島を見て) あれ？

川島 ・・・・(小野に近づこうと)

堀 川島君！待って待って！いやだ！やだ！やだ！いやーやーだ！いやーやーだ！

川島 ・

堀 (手を広げて) やだ！

川島 ・

川島はうなだれ、ゆっくりと堀の前に立ち、堀の首を絞める

(暗転)

十十

澤とわたなべが公園のベンチに座っている

わたなべ ほんとの話？

澤 にわかには信じられないと思うけど、夢というにはあまりにも現実的でしたよ

わたなべ 小野君は大丈夫なの？

澤 分かんないんだよなあ、ゆたか置いて出てきちゃったからさあ、うん、店を出た瞬間に俺は目が覚めて、こっち戻ってこられたから難を逃れたけどねえ、ゆたかねえ、ダメだろうなあ、さっき一応家行ってみただけどねえ

わたなべ いなかった？

澤 いなかったんだよなあ、俺が思うに、実体ごと向こうの世界行っちゃったんじゃないかと思うんだよね、まだ向こうに居るままだと思うんだよ

わたなべ ・・・・澤くんのせいだよ？

澤 あきこちゃんのせいだよ、あきこちゃんが呪いかけたからだよね

わたなべ 絶対関係ないと思う、私とは絶対無関係だと思う

澤 (紙を出して) 俺調べたんだよ、そしたら、いたんだよ、あの殺人鬼、実在する人物なんだよ、この写真の男に間違いないよ、俺見たんだから、この史実の通りの、どえらい野郎だったよ

わたなべ (紙を見る)

澤 なんでか分かんないけど、ゆたかき、過去に実在した世界に飛んじやったんだよ、なんでか分かんないっていうかあきこちゃんのせいなんだけど、今もそこにいるんだよ、そこにいるっていうかポツンと遺体が転がってる感じだろうけど、分かる？まとめるよ？ゆたか、今ね、なぜだか過去でひっそり死んでるんだよ

わたなべ 澤くんが助けてあげればよかったじゃない

澤 俺猫だから、猫にはなにもできませんから

わたなべ だってね、別に、呪いって、本格的にそんなの出来るわけじゃないしさ

澤 肝試しに心霊スポット行かせたら本格的に呪われたって事だよ、責任あるよ

わたなべ 私が小野君だったら見殺しにした奴はどんな時空を超えても復讐するけどね

わたなべと澤、沈黙

澤 (立ち上がり) よし、よしって言うか、なんで立ち上がったのか分かんないけどとりあえず私の方は、呪い解きました

澤 都合よすぎるじゃない、それはだって、ぬげがけじゃない

わたなべ 私のせいではないもの！

澤 俺のせいでもないよ！

わたなべ じゃあさ、じゃあさ、こうなった原因は、私たち以外の、何かしらの要素が絡んでのことだよ！

澤 あ、わかった、じゃあこうしない？こいつクズなんだよ、ゆたかもクズじゃない？二つのクズがなんだか分かんない化学変化を起こして結びついたとそれだと思う、時空を飛び越えて、クズとクズがくっついたと思う

澤 だってなんかゆたかき、あいつに共通するところあるもん、似た者同士だもん、家庭環境とか諸々全然違うけどさ、全然違うな、どうしよう

わたなべ いや、でも、なんかあると思う、なにかしらで共通する二人だと思っ

澤 生まれ変わりがな

わたなべ ・ ・ ・

澤 生まれ変わりが、ゆたかはこの生まれ変わりが

わたなべ ……(澤とハイタッチ)

澤 生まれ変わりがなんであっち行っちゃったのか分かんないけどね？

わたなべ 不思議なことってあるんだよ、説明のつかない事ってあるの！

二人、沈黙、顔を伏せてため息

(転換)

++++

舞台上、「祈りのハウス」の中庭、晴がいる。遠くで北島の演説が聞こえている。

飛鳥は座ってスケッチブックに絵を描いていて、晴は少し離れたところでポーズをとっている

晴 ねえ、もういいでしょ

飛鳥 動かないで

晴 ……一応さ、朝礼には参加しないといけない決まりなんだよ

飛鳥 だって、人がいっぱい居るんだもん

晴 ……あんた、ほんとにしばらくここに居るつもりなの？

飛鳥 うん

晴 信じられない、信じられないほんとに、私はねえ、今すぐにもここを出ていきたい、こんなところに閉じ込められて一生を終えたくない、世界の広さを知らずに自分の限界を悟りたくない！

飛鳥 じゃあ、出ていけばいいんじゃない？

晴 それができないから悶々としてるんですよ、少しは推しはかりなさいよ

飛鳥 何でできないの？

晴 ……まあ、だから、あれだよ、なんていうか

飛鳥 足、もうちょっと大地に根を張る感じで

晴 ……(足を動かしつつ) なんていうか、まあ、正直に言えば、怖いっていうか、そういうのもある

飛鳥 怖いって？

晴 ここにいる以外の私を、私は知らないから

飛鳥 腕をもっと遠くに伸ばす感じで

晴 ……(やりつつ) そうであることが当たり前な自分しか知らないし、ここを出て、外の世界で…

飛鳥 もっと

晴 (腕を伸ばしつつ) 私が
 飛鳥 もっと
 晴 どうあるべきかっていう
 飛鳥 大気圏超えて
 晴 大気圏超えて
 飛鳥 いちごジャムになる
 晴 わかんないよ！もうやだ！もう！やだ！
 飛鳥 やつてよ！私の漫画には神様が必要なの！
 晴 だって神様じゃないもん！神様じゃないもん私！神様じゃないし、神様でもい
 飛鳥 ちごジャムは表現しきれないと思う！
 飛鳥 神様でしょ
 晴 神様じゃないの！私の体についてる傷も、聖痕とかそんな、大層なものじゃなく
 飛鳥 て、私を虐待してた親がつけた傷なの！
 飛鳥 そうなの？
 晴 都合よく、神様として育てられただけの、ただの捨て子なの！
 飛鳥 そうなんだ
 晴 ・ ・ ・
 飛鳥 ちよつと、よく分からないんだけど、聞いてもいい？
 晴 なに
 飛鳥 あなたは何がしたいの？
 晴 ・ ・ ・え？
 飛鳥 あなたは何がしたいの？
 晴 ・ ・ 私がしたいことは
 飛鳥 ・ ・ ・
 晴 ・ ・ わかんない
 飛鳥 ・ ・ ・
 晴 それは、私がしたい事なのか、神様である私がしたい事なのか、神様なのに神様
 飛鳥 じゃない私がしたい事なのか ・ ・ わかんない
 晴 ・ ・ ・なんにせよ、あなたはあなただよ
 飛鳥 え？
 飛鳥 あなたはあなたなんだから、あなたはあなたであるべきだよ

北島と上田、川島と奥田がやってくる。川島は少し離れた場所に立つ

北島 やあやあやあ、おはようございます

飛鳥 おはようございます

奥田 なあ、朝礼見てただけどき、なんか凄かったよ

北島 やあやあ全く、お恥ずかしい

奥田 いやあ、凄かった、言ってることの意味が全然わかんなかった

北島 意味なんか重要じゃないですから、それっぽかったら良いんですから

奥田 そうなの？

北島 明確な答えを他人に提示されても人は反発するだけですからねえ、その答えが明らかに正解でも、人は自分の中から生まれる答えにしか正解を出さないものでしょう、ですから、それっぽいことを並べ立てて想像させるんです

奥田 わあ、すげえ、全然分かんない

北島 何が欲しいのか分からない人の前に一枚のシャツを差し出しても、俺が欲しい物はそれじゃないとなるでしょう、でも、その人の前に100枚のシャツを差し出せば、人は誰でもそこから自分好みのシャツを探すものです、そうして、その中から一枚のシャツを取り出し、これこそが俺の欲しかった物だと思うようになるものです

奥田 そうなんだねえ、今なんの話をしてるの？

上田 つまりですね、ただ食べる物と寝る場所だけ欲しくて集まってくる人たちの前で、毎日神様に関係してるといって話をすることで、神様に興味なかった人もいつのまにか神様大好きになるように、そっちの方向に進むように指導、指導というか誘導、誘導というか洗脳

北島 洗脳じゃないなやあやあやあ、女、洗脳は違うでしょやあやあやあ

上田 洗脳は違います

北島 ねえ、どうしたんだか、どうしたんだか女、ほんとに

奥田 よく分かんないけどき、妹のことよろしく頼むよ

北島 それはもう、お任せください

川島 ねえ、やっぱりさあ、俺たちと一緒にいこうよ

飛鳥 ・・でも漫画描きたいんだもん

川島 描けるって、一緒にいたって描けるよ

飛鳥 でもそしたらまた移動移動になっちゃうし、落ち着いて取り組みたいんだよ

川島 一緒にいたくないの？漫画描くことが俺と一緒にいることより上なのかよ

飛鳥 なんでそんな事言うの？一緒にいたいから言ってるんだよ、ブス！

川島 どういうことだよ

飛鳥 じゃあ漫画描き上げるまでどこにも行かずに私と一緒にいてくれる？

川島 いるよ、今までだって一緒にいたじゃない

飛鳥 そういうことじゃなくて、じゃあ、家から出ないで私の横にいてくれる？外でしたいことがあっても、それ我慢して私と一緒にいられる？

川島 ・ ・ ・

飛鳥 そんな事言う人とは一緒にいたくないでしょ？私だって言いたくないもん、だからだよ、それぐらい分かってよ、ブス！豚！

川島 ・ ・ メロンパン！

奥田 ・ ・ ・ 喧嘩すんなって

川島 俺がいない方がいいんだったら、ハッキリそう言えばいいじゃない

川島 落ち着けよ、ちよつと楽しんだらすぐ戻ってくるし、お前だって漫画描き終わって暇になったら俺たちのところに合流すればいいんだから、な？

飛鳥 ・ ・ ・

奥田 神様も、あれだよ、妹と仲良く遊んでやってくれよ？

晴 ・ ・ ・

奥田 うん？

上田 ごめんなさい、晴がなんだか、怖がってしまっ

奥田 俺を？

晴 ねえ！なんでここでそんな事言うの！

上田 だってそう言ってたから

晴 それを本人に伝える事で何が円滑に進むの！？

上田 だってそう言ってたから

晴 当然本人には伝わらないと思つての発言でしょ！

奥田 おい

晴 ・ ・ はい

奥田 俺お前に何もしてねえだろ、俺の何が怖いんだよ？

晴 ・ ・ ・

奥田 俺の何が怖いって？

上田 なんか、乾いてるんですって

奥田 ・ ・ 乾いてる？

上田 湿ったところが少しもないのが、怖いって

奥田 何それ、どう言う事？

晴
・
・

北島
まあまあ、お気になさらずに

奥田
・よし、じゃあ俺、車回してくるわ

飛鳥
お兄ちゃん、気をつけてね

奥田
ほーい(奥田、行く)

北島
では私たちも、中に入りましょうか

飛鳥
あ、ちょっと、先に行ってください

北島と上田、晴は出て行く。

残った二人、なんだか気まずい

飛鳥
パパ、昨日デブが言った事気にしてるの？

川島
別に、気にしてないよ

飛鳥
わたし、パパがいなくなったら生きていけないよ？

川島
・なんで？

飛鳥
分かんない、分かんないけど、それだけは分かる

川島
・
・

飛鳥
理由がないから厄介で、理由がないから信じられるって感じなんだよ、そんなの愛じゃないって言われたらそうなのかもしれないけど、私はその、なんでか分からないけどそう思える気持ちしか大切にしたいくないの

川島
・昨日さ、言ってたじゃない

飛鳥
何を？

川島
許す事で救われる人がいるなら、それで良いって

飛鳥
・
・

川島
そういう人でありたいって、いつも思ってるって

飛鳥
思ってるよ

川島
それってさ、俺のこと？

飛鳥
そうだよ

川島
それは、じゃあ、無理してるよね？

飛鳥
無理？

川島
俺を許さなくちゃいけない、救わなくちゃいけない、その為に無理して頑張ってるって、そういうことなんじゃないの？そんなの少しも嬉しくないよ

飛鳥
無理はしてない、けど、頑張ってるはいる

川島 だからそれがさ

飛鳥 だってパパ、お兄ちゃんとは違うじゃない

川島

飛鳥 どうしようもない事なのに、色々と考えちゃうんでしょう？

川島

飛鳥 パパの為に頑張る事は私にとって喜びでしかないの、パパが安らかで、健やかに

過ぎす事ができるなら私はなんだってするし、それはでも、もしかしたらパパの
為じゃなくてね、私の為かもしれない、だって、パパが私の全てだから、だから、
だからね、だからパパがいなくなったら生きていけない

川島

飛鳥 昨日私が言ったこと、気にしてたんだ

川島

飛鳥 かわいいね

川島

飛鳥

川島 うん、それはないよ？

飛鳥 なんてだよ、あるんだよ、お前ばっかりずるいじゃないかよ

だって私がいなくなっただぐらいで死んでほしくないんだもん、パパが死んだら
私は死んじゃうんだよ？言い換えればさ、パパが生きてる限り私はいなくなら
ないの、私は死んでもパパの横で生き続ける、難しい事言ってるでしょ、いつか
分かる時が来るからこのやり取りは絶対に忘れないでね？

川島

飛鳥

川島 無理だね

飛鳥

ずるいじゃないかよ、お前の主張だけが通る世界、普通だったら嫌気がさすよ、
それなのに、お前はホントに特別だ
私がパパにこれだけはして欲しくないって事は、パパがいなくなることだけ、あ
とはもうなんでもいい、パパの好きなように生きて欲しい。パパはパパのまま
いいの、私はどんなパパでも受け入れるし、みんながパパを許せなくても、私は
なぜだか全部許せるところにいるから、絶対大丈夫

川島

飛鳥

川島

飛鳥

川島 俺、ちっちゃい頃からずっと、相手の意にそぐわないとね？相手の気の済むよう

にしないといけないっていうか、そうすることだけが生き延びる手段だったから、自分のしたいことって邪魔なだけだったのね

飛鳥 お母さんのはなし？

川島 だからあいつを殺した時にね、ああ、これでやっと思った事出来ると思って、なにしようなにしようって思って、周り見渡したんだけど、したいことが何もなかったんだよ、真っ白、やばいと思って、このままじゃ母親に反発したかっただけになっちゃうと思って、何かないか何かないかと思って手元を見たらさ、単純にね、気持ちいいしかなかったの、母親から解放された開放感なのかなと思ってたんだけど、多分違うんだよ、単純に、人を殺す快感だけが手元に残っててさ、もつとしたいと思う訳、でもそんなのおかしいじゃない、だからああやっぱりそうかって、俺は、否定されることしかしたいと思わなかったから、否定されてたのかもしれないって、そこでやっど、そこでやっど絶望だよ

飛鳥 ……

川島 結局あいつが、俺を否定してた母親が正しかったのかもしれないって思ったら、

なんだろうね、なんだろう、俺を肯定するお前がさ、いつか、なにかに気付いちやうんじゃないかって、そう思っちゃうんだよ

飛鳥 ・・パパはあれだね、ほんとに、伸びきったうどんみたいな奴だね

川島 どういうこと？

飛鳥 ふにやふにやふにやふにや喋ってさあ、私の言うこと全然わかってないじゃないや、わかかってんだよ、わかった上で言ってるの

川島 わかってたら言えないような事言ってるんだよ、私が決意を示してるのに、怖いよ怖いよしか言ってるじゃないんだよ、結局のところ、わたしの想いをないがしろにするような事しか言ってるじゃないんだよ、だいつきらい

川島 だいつきらいはほんとにやめろ

飛鳥 だいつきらい！

川島 だいつき！

飛鳥 だいつきらい！

川島 だいつき！

飛鳥 だいつきらい！

川島 だいつきらい！

飛鳥 わかった

川島 ずるいじゃねえかよ！全てがお前の掌の上の出来事じゃないか

飛鳥 私はパパを否定も肯定もしてないの、そんなところにいないの、ただ単純に受け

入れてるだけなの

川島 うん、そうか、うん、わかった

飛鳥 それをわかってくれないなら、ほんとに大っ嫌いになる

川島 わかったよ、ごめん

飛鳥 ・ ・ ・ だから、パパは安心して、したいこととしておいで？

川島 うん

飛鳥 私も、漫画頑張るから

川島 うん

飛鳥 ・ ・ ・ じゃあ、楽しんできてね

川島 うん

飛鳥は走って去るがすぐに戻ってきて川島の前に立ち

飛鳥 ・ ・ ・ チュバ！（空中投げキッス）

川島 ・ ・ ・ チュバ！（空中投げキッス）

飛鳥、走って出ていく、川島は一人残り

川島 どんだけ可愛いんだてめえ

川島は中央の机に移動して座る。それと同時に上部ベンチエリア（山の頂上にある見晴らしのいい場所）に小野が座る。

少しして奥田が入ってきて川島の横に座る

川島 人を殺すのなんて、息をするのと一緒だよ

奥田 ああ、そうなんだ

川島 お前だってそんな感じじゃない

奥田 いや、どうだろうなあ

川島 どうだろうなって、そんな感じだよ

奥田 でもさ、そんな風に考えたことなかった

川島 そうなの？

++++

上部ベンチエリアに晴がやってきて

晴 あなた、教団の人間じゃないでしょう？こんなところで何してるんですか？

小野 ・ ・ 何してるんだらうホント

晴 え？

小野 ・ ・ ・ 君さあ、神様の生まれ変わりなんでしょ

晴 ・ ・ ・

小野 それはそれは誇らしいでしょうよ

晴 ・ ・ ・ 私は川久保晴です

小野 え？

晴 神様の生まれ変わりだとしても、私は川久保晴です、ただそれだけのことです

小野 ・ ・ ・

晴 今の私は私でしかない！私が誇らしいのは私が私であることです！

小野 ・ ・ ・

晴 今の私を見ずに、私を決め付けたり占おうとする人を、私は軽蔑します！

小野 ・ ・ ごめん

++++

奥田 え？と言うことは、お前、人を殺してて苦しい時あるの？

川島 なんて？どう言うこと？

奥田 だってさ、息してる事を意識しちゃったら、なんだか苦しくならない？

++++

晴 ねえ、こっち！

上部ベンチエリアに飛鳥がやってくる

飛鳥 (息を切らしながら) もう、なんなの

晴 なんなのじゃない、たまには外に出なきゃダメ

飛鳥 いいんだよ、漫画描くのが好きなんだから

晴 下にぼっかり目を向けてたら、彼方に広がる景色が見えなくなるんだよ

飛鳥 誰の受け売り？

晴 見て、ほら、世界はこんなに広いんだから！

晴は前方を指し示す、飛鳥は眼下に広がる景色を見る

++++

奥田が立ち上がり出ていく

++++

晴 私ね、今日ここを抜け出す事にしたの

飛鳥 え？

晴 私は私なんだから、私は私であるべきだよ

飛鳥 ・ ・ ・

晴 ねえ、自分の中で、これだけは間違いない、これだけは絶対にそうなんだって思う事ある？

飛鳥 あるよ

晴 もしもそれが、そうじゃなかったらどうする？

飛鳥 そうじゃないことはないから

晴 そうじゃなきゃいけないっていう呪いかもしれないよね

飛鳥 え？

晴 あんたの中にある、絶対がき、もしも絶対じゃなかったら、それはあんたにとつて行き止まりなのかもしれないけど、絶対じゃなかったっていう道を示すことにもなるでしょ

飛鳥 ・ ・ ちよつと、よく分からないな

晴 今のあんたが、あんたの全てじゃないってことだよ

++++

奥田が袋に入った大量のグレープフルーツを持ってきて机に置き、二人はそれを笑顔で取り出して剥きながら

奥田 妹に会いたいでしょ

川島 会いたいねえ

奥田 どんな時に一番会いたい？

川島 なにその質問

奥田 いいじゃん、教えてよ

川島 えー

++++

晴 (ネックレスを外して) これあげようか

飛鳥 いらぬ

晴 嘘つかないでよ、いつも欲しそうな目で見てたでしょ

飛鳥 ・ ・ いや、でも、私は神様じゃないし

晴 私もだよ、それなのに許されない罪を許してきた自分が許せないの

++++

奥田 なんつうかこう、お腹が空いた時に会いたくなる感じ？

川島 いやいや、逆でしょ、満腹の時こそ会いたい感じだよ

奥田 ・・いつでもじゃないんだ

++++

晴 あ、でも待って

飛鳥 何

晴 この先、自分を許せるようになるかもしれないもんね、いつかそういう自分にな

れるかもしれない

飛鳥 樂觀的すぎない？

晴 それまでは、手錠がわりにこれかけておく

++++

川島 いつでもだよ

奥田 いつでもじゃないんだ！

川島 いつでもだよ！

++++

晴 最後に一つ、お願いがあるんだけど

飛鳥 何？

晴 キッスを、して欲しい

++++

音楽が流れ、その中で川島と奥田はグレイプフルーツを剥きつつ爆笑しながら

奥田 いつでもじゃないんだ！

川島 いつでもだよ！

++++

晴は飛鳥に迫り、飛鳥は笑いながらそれを拒否しつつ

飛鳥 なんて、やだよ（笑）

晴 いいでしょ、餞別だよ！

飛鳥 やだよ（笑）

晴 いいでしょ、ほら、早く！

飛鳥 ちょっと、やめてよ！（笑）

川島と奥田は一心不乱に（奇妙なテンションで）グレープフルーツを剥き続け、晴は飛鳥を必死で迫って、飛鳥は楽しそうに拒否し、二人は爆音で鳴り続ける音楽の中で踊る。

晴と飛鳥は川島たちがいるエリアに降りていき踊り続け、川島と奥田はハイテンションでグレープフルーツを食い、叩きつけ、潰し、かきまぜ、飛沫は飛び散り、4人は狂騒している。

それまで見たことのない川島の笑顔、上部ベンチから小野がその光景を悲しそうな表情で眺め続けている

（暗転）

十十十

舞台上、川島が立っており、少し離れたところに櫻井と小川が立っている

櫻井 チュバいいね

川島 ・ ・ ・

櫻井 チュバ、いいよね

小川 チュバ、いいです

川島 それはもういいでしょ

櫻井 いいんだけどびっくりしてんだよ、そこまで話してくれると思わなかったから

川島 全部話せっていうから

櫻井 旅は楽しかった？

川島 楽しかったですよ、いっぱい殺したし

小川 旅の期間は

川島 二ヶ月ぐらいですかね

櫻井 で、ひとまずお前だけこっち戻ってきたんだよね？

北島と上田がやってくる

北島 やあやあやあ、お久しぶりです、旅はいかがでしたか

川島 （刑事に）なんか、おかしな雰囲気はあったんだよねえ

北島 あれ、お兄さんは？遅れて合流ですか？

川島 （刑事に）あいつがすす飛んでくると思ってたのに、出てこないからさ

北島 やあやあやあ

川島 （北島に）あいつどこ？

福井 妹さんには今ちよつと雑務をしてもらってまして、ええ
北島 最近はもう、色々手伝って貰って、助かっております
上田 今やこの施設のアイドルみたいになってますよ、私を差し置いて
北島 女、アイドル気取りだったか、やあやあやあ
上田 イヤー
北島 やめろやめろやあやあやあやあ
川島 (刑事に)よく分かんないやりとりなんだけどさ、その後もつと分かんないこと
言われて
北島 あの、突然ですが、ひとつご相談がありました
川島 え？
北島 このまま、立ち去っていただくわけにはいかないでしょうか・・・？
川島 は？
北島 いや、突然そんな事を言われても納得していただけないことは承知しているん
ですが、本人がですね、会いたくないと・・・
小川 どういうこと？
北島 説得したんですよ？そういう訳にもいかないし、それはあまりにも無礼じゃな
いかと、強く強くねえ
上田 強く強く説明、説明というか説得、説得というか洗脳
北島 女、また洗脳いった、ダメでしょやあやあやあ
上田 洗脳は、だめです
小川 なんだよそいつら、どういうことなんだよ
北島 彼女が言うにはですね、神の教えに背く行為をしている人とは会いたくないと
上田 彼女はもう、完全に神の存在を受け入れてますから
北島 ここはひとつ彼女の意思を尊重して、このまま立ち去って頂けないでしょうか
小川 いや、あの子はそんな事言わないでしょう
北島 言ったんです
小川 嘘だよ
北島 嘘じゃないんです
小川 信じられないよ、だつてさっきの話じゃ
櫻井 あの子、純粹すぎるんだよなあ
小川 え？
櫻井 ほら、酒場で会った時、悪い事してないってあの子言っただじゃん、あれさあ、ほ
んとに悪いことだつて思ってたって思ってたって思ってたって思ってたよ

小川 ……純粹だから、こいつらに感化されたってことですか？

櫻井 感化されたら、純粹にそれしかなくなっちゃうって事なんだろうけどね

北島 あなたとお兄さんがどんな行為を重ねているのか妹さんから詳しく聞きましたよ？妹さんはしかるべき場所に通報することも検討していましたが、それはしないほうがいいと私たちが進言しました、これは、神からの慈悲だと思って頂きたい

川島 俺笑いそうになったよ、こいつが神の慈悲ってねえ

北島 ご覧いただければわかるように、ここは神の宿る聖なる場所です、そこで騒ぎを起こされるような事があれば、神の慈悲を無下にするしかなくなる、それは妹さんにとつても、悲しい事態に他ならないと思いますが？

上田 神は、平穩をお望みです

北島 どうか、どうか理解して頂きたい、彼女を愛しているならこのまま黙って立ち去っていたきたい、あなたの罪をここで断罪する気もありません、私たちは私たちの平穩が守ればそれだけでいいのです、それだけが全てなのです

上田 聞こえています？

川島 ……

上田 通報しますよ、きちがい

上田と北島、出て行く

小川 通報は、されなかった？

川島 されなかったよ、その前に殺したから

小川 ……で、彼女に会ったんだよね？

3人から少し離れた場所に飛鳥が出てくる、川島にしか見えていない

川島 ……会いましたよ

櫻井 どんな話したの？

川島 漫画描いてるか聞いて、描いてないっていうから、ちんこの漫画描きたがってたじゃないかって言って、そういうこと言うなって怒られて、迎えに来たって言ったら帰れって言われて、何がどうなってんのか分かんなかったなあ

小川 ……櫻井さん、こいつなんか可哀想じゃないですか？

川島 神様の話ばかりするんですよ、神様がいかに偉大で、素晴らしくて、自分は今

つと神様の近くに行きたいと、俺はもう、びっくりするぐらい泣いちゃって、泣いてる俺を見て、真人間になれて言うんですよ、いかに俺が間違ってるかっていうのを、ギャンギャンギャンギャン言うんだよなあ、ほんと、お袋みたいに、ギャンギャンギャンギャン、うるせえなって、こいつ、なんだろうって、ああそうか、こいつ、俺が間違ってる事にやっぱり気づいちゃったんだって、なって、うん

櫻井
・・・殺したの？

川島は飛鳥を見る、飛鳥は優しい表情で川島を見ている

川島
・・・いや、俺は殺してないと思う

小川
は？じゃあ誰が

川島
だってね、こいつだけは傷つけないって思ってたものが、こう、横たわってる訳ですよ、俺がこいつ殺す訳ないんだもん、こいつは違ったのかもしれないけど、俺はこいつが死んだらほんとに死ぬぐらいの気持ちでいたんだもん、そいつが死んでたら、あ、俺じゃない、誰かが殺したんだって思うもんですよ、もしくはね、俺が殺したとしても、俺の意思じゃない、何か俺にそうさせたんだって思うじゃないですか、だから周り見渡して、あいつがいると思ったから、あいつ探して、そしたら、そういうときに限って出てこないんだよ！

小川
誰が

櫻井
お袋さんでしょ？

川島
あのきちがい、俺を貶めるプロなんだよ、どうやったら俺が苦しむのかよく知ってたんだよ、ほんと、すげえよあいつ

小川
・・・やっぱりこいつ可哀想じゃないですか？

川島
俺はもう、すげえ、わんわん泣いて、なんでこんなことになっちゃったんだって、愛してたのになって、ごめんごめんって謝って、そしたらね、そこにあいつが戻ってきて

奥田が入ってくる

奥田
・・・まあ、しょうがないんじゃない？めんどくさいところあったしき、時間の問題だったよ

川島
こいつ、とんでもねえなと思って

奥田　ねえ、ねえねえ、覚えてる？神様いたじゃん、こっち戻って来る前あいつにたま

たま会ってさ、なんか凄いの、垢抜けた感じになって、びっくりしちやったよ

小川　え？

奥田　なんでここにいるの？ってなって、そうしたら神様辞めたって言うから、神様辞めたのになんでネックレスしてんの？って聞いたらさ、なんだかモジモジして、逃げようとするからね、ちよつと待ってって止めて、聞いたのよ

小川　なんて

奥田　もし俺がお前のことを殺しても、お前は俺を許せるのかって

櫻井　・・・

奥田　そしたらさあ、許せないって言うから、神様はなんでも許すんじゃないのかって聞いて、そうしたらもう神様じゃないって言うからさ、勝手な事ばかり言って、なんなんだろうこいつと思っただけど、そこでね、分かったのよ、やっぱりそうだったんだって、こいつはそもそも神様じゃなくて、悪魔だったんだって、だって、だってこれがね

奥田はネックレスを取り出して、川島に見せる

奥田　お婆ちゃんがしてたのと、一緒だもん

奥田はふふつと笑い、ネックレスを首にかけて

奥田　妹は俺が片付けとくよ、お前きついだろ？

奥田は出ていく

川島　そう言って、片付け始めたんだけど

奥田　（舞台奥から声のみ）こうなってみると、こいつもやっぱりただのモノでしかな

いなあ！

川島　って言ってね

小川　・・・なにした

川島　しようとしたから、殺した

櫻井　・・・可哀想？

小川　・・・ちよつとよく分かんなくなってきました

川島　でもほんと、よく見ると、ただのモノでしかなくなってる、だからね？もう、天

使じゃないんだけど、形としては天使のあいつと、はじめて、セックスした

小川　・ ・ ・ 可哀想じゃなかったです

川島　そのあとはもう、なにがどうでもよくなっちゃって、メチャメチャに殺して回ってたら、あつかりと、どうでもいいところから足がついて、刑事さんたちとお喋りする羽目になりました

櫻井　・ ・ ・ いやあ、こいつは可哀想だよ

小川　え？

櫻井　だってさあ、お前、生きてて幸せだなと思ったことあるんだっけ？

川島　ないですね

櫻井　だよなあ、人生の全てが嫌でたまらなかったし、あらゆる人間が憎かったし、好きなものなんてなかったし幸せなことなんて何もなかったんだよなあ？

川島　・ ・ ・

櫻井　（微笑みながら）可哀想になあ、自分がそうであったことに、気づいてもいなか

ったのにな？

飛鳥　パパ

川島　・ ・ ・

櫻井　・ ・ ・ 彼女がいなくなっただけでどう思った？

飛鳥　パパ

川島　いなくなっても、ほんとに、いなくならねえんだなと思った

飛鳥　私はパパの、一生の恋人だよ

（暗転）

＋＋＋

わたなべと澤、舞台上部のベンチに座っている

澤　もう、あれだね、完全に、戻ってこないねあの人

わたなべ　・ ・ ・ 最近、ぐっすり寝れる？

澤　それがさ、結構ぐっすり

わたなべ　・ ・ ・ 私も結構ぐっすり

澤　人間だよな、俺たちって

＋＋＋

下のエリアは面会所、堀と川島が机を挟んで座っている

川島 特別らしいよ、面会

堀 . . .

川島 堀君、なんだか、ほんと、よく分かんないけど、色々ありがとうね

堀 . . . 川島君、なんであの時俺のこと殺さなかったの？

川島 だって堀君って、なんなんだろうね、なんだかわからない存在の人だから

堀 . . . 友達って言ってくれてもいいんじゃない？

川島 堀君殺すってことは、堀君の中にある俺を殺すってことじゃない

堀 え？

川島 堀君が思うところの本当の俺がさ、もしも、本当の俺だったとしたら、いいなあ

堀 って思う時があるんだよ

堀 . . .

川島 ないかな、ごめん、よく分かんないけど、もしかしたらそっちの方がよかったの

堀 かもしれないって思う時があるから残しておきたくなっちゃうんだと思うよ

堀 俺は、そっちの川島君しか知らない

川島 言い張るよね

堀 今までも、これからも、俺は俺が知ってる川島君しか知らない、それ以外の川島

君は俺にとってどうかしちやった川島君でしかない！今、そっちにいる川島君

は、どうかしちやった川島君でしかない！川島君はこっちなんだよ、そっちにい

たってどこにいったって本当の川島君はこっちにいる川島君でしかない！

川島 そうだよ

堀 違うよ！

川島 言い張るからさ、俺なりに、堀君を助けようとしたんだよ、だってほら、ちっち

やい頃、いっぱい助けようとしてくれたからさ

堀 助けてあげられては無かったということだね？

川島 そもそも助けが必要だったのかもわからない

堀 . . .

川島 こっちの俺はこっちの俺で、なんだかんだ、楽しい時もあったから

堀 . . .

川島 堀君、今は俺に裏切られたような気持ちでいっぱいなんだろうけどさ、いつかま

た、俺を助けようと思ってくれる時が来たら、俺はそれ、嬉しいよ

堀 . . . 助けなんか必要じゃないかもしれないのに？

川島 うん

堀 ……川島君にとって、俺ってなんなのか分かったらそうするよ

川島 実はね、それはもう、分かったんだよ、最近わかったの

堀 なに？

川島 色とりどりのコンペイトウだよ

堀、出て行く、川島は一人残って座っている

++++

わたなべ でも、もしゆたかが戻ってきたら、どうしようかって言うのは決めてる

澤 あ、それはね、俺も決めてる

わたなべ え、どうするの？

澤 あきこちゃんこそ、どうするの？

わたなべ 目の前で、呪いを解いてあげるんだよ

澤 そして俺は、どれだけゆたかを愛してるのか伝えるんだよ

わたなべ あれ、澤くんってそうだったんだ

澤 ものすごく、そうだったんだねえ

舞台上部の明かりは消え、澤とわたなべは出ていく

++++

小野が出てきて、川島の前に立つ

川島 ……またお前かよ

小野 ……あの…俺って、あなたの、生まれ変わり…

川島 『生まれ変わり』に被せるように) お前さあ、どこ住んでんの？

小野 ……普段は、ここじゃない世界に

川島 ……そこでなに？どんな生活してんの？

小野 まあ、あの、自慢できるような生活はしてないです

川島 ……

小野 けど、あの

川島 ……

小野 人を殺したりは、してないし、できないです

川島 ……お前、自分の事クズだと思ってるんだろ

小野 ……いや、まあ

川島 誰も愛せないし愛されないとか思ってたんだろ

小野 もしかしたらと思ってるところに、そう言われたもんで、そうなのかなって

川島 俺から言わせれば、お前なんて、クズでもなんでもねえよ

小野 . . .

川島 クズぶってんじゃねえって感じだよ

小野 . . .

川島 だから、分かんねえけど、誰かを愛せるし、愛されたりもするんじゃない？

小野 . . . つかあなたが俺になって、そうしたら誰かを愛したり、誰かに愛されたりするのかもしれないって言う希望を、あなたが今、持っているなら

川島 . . .

小野 誰かを愛したり、誰かに愛されたりするのは俺であって、あんたじゃないし、だから、俺はあんたの希望じゃない

川島 . . .

小野 あんたはどうあっても、あんたでしかないと言う絶望だよ

川島 . . . お前に希望なんか持ってねえよ

小野 . . .

川島 俺は俺であることが、幸せでしょうがねえんだよ

小野 . . . がんばります

川島 頑張りますってなんだよ、何を頑張るんだよ

小野 . . . クズにもなれない時間を

川島 . . . はやく帰れよ

小野 . . . がんばります！

小野、出て行く、川島は一人残って座っている

川島は椅子に座りながら頭を机に伏して、肘を机につき、手を上前方に伸ばす

暗転

のちすぐに明転、手を伸ばす川島の前には飛鳥が座っていて、中央に母親が座っている。

飛鳥は無表情で、母親は笑顔で川島を見ている。

川島が伸ばす、その手に触れるものは、なにもない

おしまい

